



画 情 義 報

2005年度

講 義 計 画

桃山学院大学

画

十

据

据

科 目 名			
外国書講読			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
12	通期	4	田 中 悟

【講義概要・学習目標】

近年、世界的に「プロ・パテント政策(特許保護強化政策)」の流れが生じ、知的財産権制度に対する関心が高まっている。本講義では、アメリカにおいて経済学の立場から知的財産権制度に関する経済分析を行ってきた著者が、最近一般向けに著した評論(テキストの項を参照)を講読することを通じて、知的財産権に関する経済政策の概要を学び、この種の政策のあり方を経済学的に考える。

【講義計画】

授業は、各自の予習を前提にテキストの翻訳を行ってもらい、内容に関する解説と討議を行う形で進める。テキストは論争的な内容を含んでいるから、異なる立場を取る他の著者による著書(参考文献1を参照)を一部参照しながら講読していく。なお、具体的な授業の進め方、テキスト並びに評価方法に関する説明を第1回目の講義時に行うので、受講希望者は出席されたい。

【成績評価の方法】

平常の授業への参加態度(50%)及び定期試験の結果(50%)を総合して評価を行う。

【教科書】

Jaffe, A.B. & J. Lerner. (2004), Innovation and Its Discontents: How our Broken Patent System is Endangering Innovation and Progress, and What to do about It, Princeton University Press.

【参考文献】

- テキストを補完する書物として、
- 1.Scotchmer, S. (2004), Innovation and Incentives, MIT Press.を挙げる。また、知的財産権制度並びにイノベーションの分析に関しては、下記邦語文献が有益である。
 - 2.後藤晃(2000)『イノベーションと日本経済』(岩波新書)
 - 3.一橋大学イノベーション研究センター編(2001)『イノベーション・マネジメント入門』(日本経済新聞社)
 - 4.竹田和彦(2004)『特許の知識(第7版)』(ダイヤモンド社)
- なお、その他の参考文献については、授業中に適宜指示する。

【備考】

予備登録科目 (先着登録)

科 目 名			
外国書講読			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
13	通期	4	田 村 剛

【講義概要・学習目標】

環境省では、環境税の創設に向けて様々な検討がなされている。本外国書講読では、環境税の理論的枠組みについて学び、OECD諸国の先進事例を通じて、環境税に対する理解を深めるとともに、テキストの輪読を行うことにより、英語の読解力を高めることを目標とする。

【講義計画】

テキストの順序に従い、1 授業あたり 2～3 ページ程度を数人で分担し、順番に翻訳を行ってもらい、その都度解説を加える形で進める。なお、発表者がわからなかった箇所については、他の人に答えてもらうので、参加者は予習が必要となる。

【成績評価の方法】

出席状況、翻訳の出来具合、発言などを考慮して総合的に評価する。

【教科書】

Stephen Smith(1994), Taxation and the Environment : Complementary Policies

【参考文献】

随時指示する。

【備考】

予備登録科目 (先着登録)

科 目 名			
外国書講読			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
14	通期	4	暮 石 渉

【講義概要・学習目標】

この授業で用いる教科書は、「日本人の生活、仕事、日本の制度に関して、われわれにとっては当たり前のことであっても、他の国々の人にとっては奇妙に感じることを経済学的な視点述べたものです。扱われているテーマには「日本の医者はずいぶん多くの薬を処方するのか」、「日本人はなぜパチンコが好きなのか」「日本にはどうしてたくさんの自動販売機があるか」などがあります。

【講義計画】

この授業は輪読形式で行い、一回の授業につき3～4人の発表者に担当してもらいます。半期につき、一人2度程度の発表を予定しています。

【成績評価の方法】

前期試験と期末試験に基づき評価します。

【教科書】

Japan : Why It Works, Why It Doesn't : Economics in Everyday Life (Latitude 20 Books(Paperback))

James Mak(著), Shigeyuki Abe(著), Kazuhiro Igawa(著), Shyam Sunder(著)

【備考】

予備登録科目（先着登録）

科 目 名			
外国書講読			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
31	通期	4	松 本 眞 一

【講義概要・学習目標】

分野的には児童福祉の領域で英文の資料を用いて、児童虐待や非行、ストリートチルドレン等の福祉課題について研究する。地域（国別）としては、小生が2002～03年（1年間）の海外研修で訪ねた東南アジアやオーストラリア、カナダ等の文献を主として使用する。東南アジアで暮らす子どもたちの悲惨な生活状況や豪州・北米の進んだ虐待対応策等について日本の場合と比較検討することで児童福祉課題への理解を深めることを目標とする。

【講義計画】

事前に配布された児童虐待や非行、ストリートチルドレン等に関する英文資料を各受講生が順次翻訳する形式（ゼミ形式）で進める。ほとんど毎週全受講生に宿題が課せられるので、受講希望者はその点を覚悟して受講することが必要である。（その意味で欠席者には厳しい評価が下される。）

【成績評価の方法】

①出席、②読解力、③小試験を総合して評価する。（但し、欠席5回で除籍とする。）

【教科書】

使用する資料を毎週コピーして配布する。

【備考】

予備登録科目（先着登録）

科 目 名			
外国書講読			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
41	通期	4	隅 田 孝

【講義概要・学習目標】

マーケティングをいかに効率よく戦略的に計画・実践するかという事は、事業分野を問わずほとんど全ての企業にとって非常に重要な課題である。また、企業はマーケティングを計画・実践するには生産、製品、販売、顧客、市場などさまざまな環境と密接に関係をもっていることを認識していなければならない。

上述したマーケティングの核となる概念を英語文献を使用してしっかりと理解していく。

本講義では、マーケティングへの理解はもとより、平行して英語への理解についてもしっかりと学んでいく。特に、英文講読に必要な文法力の鍛錬に多くの比重を置く。TOEFLサンプルを使用し文法解説を行う。 よって、受講生の理解度を測りながら英文講読を進めていくと共に、マーケティングの理解、英語文献読解力、TOEFL・TOEIC対策などさまざまな目的に対応した講義を行っている。

【講義計画】

毎講義において、前半は文法解説・後半は配布プリントの英文精読を行う予定である。受講生の理解度を考慮して、英文精読は時間をかけてゆっくりと進めていく。

1. マーケティングの概念
2. 生産、製品、販売、市場の概念
3. 顧客価値と顧客満足について
4. 企業のマーケティング環境
5. マーケティング・ミックス
(4P: Place, Price, Product, Promotion)

以上が概ねの予定であるが、これら以外にも必要に応じて指示をする。

【成績評価の方法】

出席状況、授業態度、期末試験により総合的に評価する。

【教科書】

Kotler, Philip(1994), Marketing Management, 8th. ed., Prentice Hall. より抜粋しプリントを配布する。

【参考文献】

必要に応じて参考文献を指示する。

【備考】

予備登録科目（先着登録）

科 目 名			
外国書講読			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
42	通期	4	山 本 浩 二

【講義概要・学習目標】

経営学と管理会計および財務会計について、英語でかかれた入門の標準的なテキストによって、学習します。経営学や管理会計・財務会計の基本的な知識に加えて、専門用語を理解することを目標とします。

【講義計画】

次のような内容について学習します。

- (1) 管理会計と経営組織
- (2) コストの動きとCVP関係
- (3) コストマネジメント
- (4) マーケティングの意思決定と関連情報
- (5) 製造の意思決定と関連情報
- (6) 予算と責任会計
- (7) 分権組織の管理
- (8) 財務会計の基礎

【成績評価の方法】

日常の出席状態と担当箇所の報告内容およびレポートによって評価します。

【教科書】

C. T. Horngren, G. L. Sundem, W. O. Stratton, “Introduction to Management Accounting”, Prentice-Hall, 12ed.

【参考文献】

必要に応じて指示します。

【備考】

予備登録科目（先着登録）

科 目 名			
外国書講読			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
51	春学期集中	4	鈴 木 博 信

【講義概要・学習目標】

共通通貨「ユーロ」の誕生をふまえて、いまや「ヨーロッパ連合憲法」の採択が日程に上っているEUの動向は、目がはなせない。ヨーロッパ大統領、ヨーロッパ外相すら登場する時代がこようとしているわけだ。

“The Economist”など、英文の週刊誌や新聞の記事を材料にして、「EUの現状」をウォッチしていく。

素材となる記事は、授業のさいに配布する。

【講義計画】

1. えらんだテキスト＝素材を、参加者に順次分担してもらい、訳出していただく。
2. 英和辞典必携。
3. 「教科書」にあげた副読本は必読かつ必携。
「ローマ帝国」から「ユーロ誕生」まで、を理解してほしい。

【成績評価の方法】

1. 出席状況と分担部分の報告が6割、
2. 学期末レポートが4割、 の見当で評価の予定。

【教科書】

必読副読本として、下記の書物を使用。
○クリスチーナ・オ克蘭、伴野文夫訳
「語り継ぐヨーロッパ統合の夢」NHK出版、2002

【参考文献】

必要に応じて紹介。

【備考】

予備登録科目（先着登録）

科 目 名			
外国法			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	沼 口 智 則

【講義概要・学習目標】

外国法の中で英米法を講義する。英米法は、イギリス法とアメリカ法に分かれる。《春学期》は、総論として英米法の歴史を概観しながら、コモン・ロー（Common Law）のシステムについて説明していく。次にイギリス法を中心に、コモン・ローとは何か、その特質とは何かということについて、人権の成立とその発展の歴史的背景を踏まえて講義を進めていきたい。《秋学期》は、アメリカ法を中心に司法審査制のしくみ・アメリカ連邦制の特徴・判例法原理などを具体的判例の紹介・分析を通じて明らかにしていく。同時にアメリカ法文化の特徴を日本の法文化との比較の中から考察し、日本の「法化社会」（＝「訴訟型契約社会」）のいくえも展望していきたい。

【講義計画】

1. 英米法総論
 - ・英米法の歴史と特徴
 - ・コモン・ロー（判例法）原理
2. イギリス法
 - ・人権の成立とその発展
 - ・コモン・ロー（判例法）原理
3. アメリカ法
 - ・司法審査制
 - ・アメリカ連邦制
 - ・コモン・ロー（判例法）原理
4. 英米法と日本
 - ・日本の「法化社会」＝「訴訟型契約社会」のいくえ

【成績評価の方法】

夏休みに簡単なレポート（指示する課題図書の中から選択）を書いてもらうとともに、学年末試験で総合評価する。春・秋学期中に授業中に書ける程度の小レポートを要求する場合もある。

【教科書】

特に指定しない。

【参考文献】

開講時に基本文献リストを配布するとともに、講義でその都度指示する。

科 目 名			
カウンセリング [2]			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	岡 井 哲 明

【講義概要・学習目標】

悩み多き時代である。複雑化する世相を反映してか、心の問題に深くつながっていると感じられる出来事は多く、カウンセリングに対する期待にも大きいものがある。もともと、アメリカで教育相談から発展してきたものであり、対人援助の技法として、主として言葉を用いて関わるものであり、日本に紹介、導入されて以来、国内でも相当な広がりを得て実践されている。カウンセリングという言葉を知らない人は少ない。

本講義では、カウンセリングについて、その具体的な心理的援助が実際にどのような理論で展開されているのか、構造的な約束事等ルール必要性などを含めて、具体的に講義を進めていく。

必要に応じて事例や社会現象等にも触れ、人間の心の凄さや深さについての理解を深め、幅広い観点で、これから対人援助に向かうであろう受講者に役立てる契機となれればと考えている。

【講義計画】

1. 「こころ」とは
2. カウンセリングとは
3. カウンセリングの歴史
4. カウンセリング理論
- 4－2. カウンセリング技法
- 4－3. カウンセリングにおける構造化の意味
5. カウンセリング過程
6. カウンセリングの効用と限界
7. カウンセラーの養成

【成績評価の方法】

学年末試験（論述）の成績を最終的な評価とする。その他レポート有。

【教科書】

特に指定はしない。

【参考文献】

随時、講義の中で参考図書については紹介する。

科 目 名			
科学思想史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	松 永 俊 男

【講義概要・学習目標】

近代科学は17世紀に成立するが、その思想的背景には、古代ギリシアの合理主義、魔術思想、キリスト教信仰などがあった。この授業では、その中でも科学とキリスト教との関係に焦点を絞って講義する。

一般に、科学と宗教は対立すると思われているが、それは間違いである。西洋近代科学は、神に由来する自然の秩序を見いだすことを目的にしていた。科学研究はキリスト教に奉仕するものだった。ようやく19世紀になって、科学は宗教から分離、独立していった。

講義ではガリレオ、ニュートン、あるいはダーウィンらの科学がキリスト教信仰と結びついていたことを明らかにし、それにもかかわらず、なぜ、科学と宗教が対立すると思われているのかについて考察する。

【講義計画】

おおむね以下のテーマを扱う。

1. アリストテレスの合理主義
2. アルキメデスの数理思想
3. 魔術思想と科学
4. 17世紀科学革命とキリスト教
5. 地球の歴史と『創世記』
6. 進化論とキリスト教
7. 科学と宗教の闘争史観の成立とその崩壊

【成績評価の方法】

毎回の授業の最後に小テストを実施し、その総合によって評価する予定だが、受講生多数の場合には、期末試験によって評価する。また、出席率が良くても、試験の成績が悪ければ不合格となる。

【参考文献】

松永俊男『ダーウィンの時代－科学と宗教』名古屋大学出版会

【備考】

<02～05生>
共通自由科目として、SS生対象外

科 目 名			
科学と技術 I－現代科学の宇宙像			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	桑 原 雅 子

【講義概要・学習目標】

宇宙論は、それぞれの時代における人間の叡知の結晶である。この講義では、近代から現代にいたる自然科学によってもたらされた宇宙像を中心に講述する。天文学、素粒子物理学、さらに観測装置やロケットなど技術のめざましい進歩によって、われわれは宇宙の始源について正確なシナリオを描き、宇宙の構造について精緻な知見をもつにいたった。現代科学は、物質世界の統一の記述に一応成功しつつあるといえよう。文系の学生諸君に宇宙科学最前線のテーマをわかりやすく話すことは、担当者にとっても至難の技であるが、チャレンジしてみよう。この講義をとおして、現代科学の方法、科学と技術の分ち難い関係、巨大科学の進展と国家の科学技術政策とのかかわりについて考えるきっかけを提供したい。古来から宇宙について省察することは、人間存在について思いをめぐらせることであった。コスモロジーとしての人文科学的側面も重視したい。

【講義計画】

序章

はじめに：宇宙論小史

1. 近代科学の宇宙像
2. 観測と理論18－19C
3. 銀河と宇宙の構造
4. 膨張する宇宙
5. 相対論的宇宙論
6. ビッグバン・モデル
7. 重元素生成と星の一生
8. 素粒子の世界
9. 標準理論を超えて
10. 観測的宇宙論の新展開

終章

おわりに：宇宙と人間

【成績評価の方法】

期末試験による。授業中に課する小レポートを参考にする。

【教科書】

使用しない。

【参考文献】

講義中に指示する。

【備考】

01生以上対象

科 目 名			
科学と技術 I－宇宙の探求			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	桑 原 雅 子

【講義概要・学習目標】

宇宙論は、それぞれの時代における人間の叡知の結晶である。この講義では、近代から現代にいたる自然科学によってもたらされた宇宙像を中心に講述する。天文学、素粒子物理学、さらに観測装置やロケットなど技術のめざましい進歩によって、われわれは宇宙の始源について正確なシナリオを描き、宇宙の構造について精緻な知見をもつにいたった。現代科学は、物質世界の統一の記述に一応成功しつつあるといえよう。文系の学生諸君に宇宙科学最前線のテーマをわかりやすく話すことは、担当者にとっても至難の技であるが、チャレンジしてみよう。この講義をとおして、現代科学の方法、科学と技術の分ち難い関係、巨大科学の進展と国家の科学技術政策とのかかわりについて考えるきっかけを提供したい。古来から宇宙について省察することは、人間存在について思いをめぐらせることであった。コスモロジーとしての人文科学的側面も重視したい。

【講義計画】

序章 はじめに：宇宙論小史

1. 近代科学の宇宙像
2. 観測と理論18－19C
3. 銀河と宇宙の構造
4. 膨張する宇宙
5. 相対論的宇宙論
6. ビッグバン・モデル
7. 重元素生成と星の一生
8. 素粒子の世界
9. 標準理論を超えて
10. 観測的宇宙論の新展開

終章

おわりに：宇宙と人間

【成績評価の方法】

期末試験による。授業中に課する小レポートを参考にする。

【教科書】

使用しない。

【参考文献】

講義中に指示する。

【備考】

01生以上対象

科 目 名			
科学と技術Ⅲ－人と自然Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	井 田 和 子

【講義概要・学習目標】

都市への人口集中に伴い森林は生活空間から遠ざかり、日常生活では人工の素材が広く使用され、森林との関わりを意識する機会は減ってしまった。そして森林に関する認識はきわめて低いものとなってしまったが、森林はヒトを含む生物に必須のものである。

平成13年、森林の多面的な機能を十分に発揮させることを目指した森林・林業基本法がスタートし、森林を木材生産の場とするだけでなく、多様な公益的機能を発揮する存在として位置づけられた。

森・川・海は、お互いにつながり合っており、さまざまな生き物の生息をたすけ、それらの食物連鎖によって生命を育んできた。いま、生命の回廊としての川の役割の大切さが見直されてきている。

【講義計画】

- I 人と森林
 林業・木材産業、環境資源としての森林
 熱帯林の減少と日本のかかわり
 地球温暖化防止のための森林の役割
 地域住民との協働・連携による森づくり
 森林環境教育
 里地里山の保全再生
- II 森と川と海の生命循環
 みどりを守る 水辺を守る 海を守る
 水質汚染 水質の確保 水源の保全
 広がる大気汚染と酸性雨
 森は海の恋人
- III 自然との共存・生活環境の保全

【成績評価の方法】

テーマに関するビデオを毎回見るが、その要点を2～3回は提出してもらい、期末テストの結果とあわせて評価する。

【教科書】

毎回プリントを配布する。

【備考】

01生以上対象

科 目 名			
科学と技術Ⅲ－人と自然Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	井 田 和 子

【講義概要・学習目標】

オゾン層破壊の研究がモントリオール議定書を、気候変動研究の成果が京都議定書を生み出した。それはまた、人間をはじめ生き物の生存基盤の脆弱さを意味するものでもあった。科学技術の発達によって、自然に適切に対応するための具体的な方策は何処まで判明していて、どの程度が実行に移されたのであろうか。

世界人口は増加の一途をたどっており、環境破壊の促進と食料不足などが予測されている。21世紀は、農業を介して大地としっかりと向き合う「着土の時代」といわれる所以である。

【講義計画】

- ・オゾン層破壊はなぜ止まらないか
- ・温暖化防止に向けてどう知恵を統合するか
- ・酸性雨はどこからくるか
- ・熱帯林の保全に向けて
- ・生物多様性の保全はなぜ必要か
- ・砂漠化防止に求められるもの
- ・海洋汚染はどこまで進んでいるか
- ・環境中に放出された有害化学物質の行方は
- ・人口増加と食料不足にどう対処するのか

【成績評価の方法】

テーマに関するビデオを毎回見るが、その要点を2～3回は提出してもらい、期末テストの結果とあわせて評価する。

【教科書】

毎回プリントを配布する。

【備考】

01生以上対象

科 目 名			
科学と技術Ⅳ－情報と論理			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2	後 藤 邦 夫
02	秋学期	2	

【講義概要・学習目標】

コンピュータの内部やインターネット回線を駆け巡る「情報」はいわゆるデジタル化された情報であり、ただ二種類の記号（バイナリー・コードという）で表現された長い列になっている。他方、論理学では正と誤という二種類の判断をやはり二種類の記号（例えば1とゼロ）で表わす。両者の間には何か関係があるのだろうか。私たちが使っている広い意味の「ことば」の形式的な側面を符号列として扱うのが「情報の理論」であり、論理学の規則にしたがって「情報」の形を変化させる仕組みを扱うのが「計算の理論」である。これらは私たちの身近で広く使われているものであるが、必ずしも理解に容易であるとはいえない。このようなモデルは「科学技術」による情報の扱いにとっては好都合のものであるが、人間が互いに言葉を交わしながら考えるという「情報処理の原点」を変えつつある。その解釈をめぐっては、多くの哲学的議論がある。

この講義では、できるだけ平易にこのテーマを解説し、人間のコミュニケーション行為、さらに人間そのものを理解する助けとしたい。

【講義計画】

以下のテーマをそれぞれ2、3回ずつ扱う。

- (1) 議論の前提となる基礎的事項：集合の構造とその表現。
- (2) 情報の理論的基礎（シャノンの理論）。
- (3) 2進法の代数と論理学の関係。
- (4) 「言葉」と「論理」とコンピュータ。
- (5) 人間の行為としてのコミュニケーションとの関係。

【成績評価の方法】

試験による。レポートを課し、参考にする。

【教科書】

使用しない。必要に応じプリント等を配付する。

【参考文献】

部分的な問題については、おびただしい良書がある。しかし、このテーマを一貫して扱った本は意外に少ない。講義に際して配付するシラバスでその一部を挙げるが、他はテーマごとに授業中に示す。

【備考】

01生以上対象

科 目 名			
学外研修－インターンシップ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	秋学期	2	今 木 秀 和 義 永 忠 一
02	秋学期	2	

【講義概要・学習目標】

インターンシップとは、学生が在学中に企業などにおいて研修的な就業体験などをするプログラムであり、大学教育と社会における実地の経験を結びつけることによって、教育の効果を一層あげることが目的としている。

なお当科目については、事前に実施される応募・選考の手続きをしていない場合には、履修手続きができないので注意すること。

【講義計画】

プログラムの概要

- (1) 事前研修
 - A プログラムのガイダンス
 - B 研修企業・団体などの事前研修
 - C ビジネスマナーの指導
 - D 研修要領の説明と報告書の作成指導
- (2) 研修期間

夏期休暇中（60時間以上、2週間の予定）
- (3) 事後研修

研修結果の報告

【成績評価の方法】

事前研修、事後研修、研修先からの評価、研修報告書などを含めて総合的に評価する。

科 目 名			
学科特殊講義－第二言語研究			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	マイケル キャロル Michael Carroll

【講義概要・学習目標】

Many people (in fact most throughout the world) learn to speak more than one language. How do they do it? What are the characteristics of second language speech? What effect does a second language have on a first, and vice-versa? How is second language learning affected by age? What do we mean when we say a person is bilingual? How is learning pronunciation different from learning grammar and vocabulary? These are some of the questions asked by 2nd language research.

【講義計画】

Lectures and discussions. Students should attend every class and be willing to participate in discussions. Each student will prepare and lead one discussion during the course.

The course is suitable for overseas students as well as Japanese students, and is conducted entirely in English.

Lectures will be delivered by several members of the Faculty of letters, including Professors Gregg, Nanjo and Tomozawa.

【成績評価の方法】

Short reports or quizzes on each topic. One short oral presentation. There will be no examination.

【教科書】

There is no text. Each lecturer will prepare handouts for their topic, and a glossary of words used in their lectures.

【参考文献】

To be given in class

【備考】

インテグレーション科目
英語による授業科目

科 目 名			
学科特殊講義－比較文化			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	マイケル キャロル Michael Carroll

【講義概要・学習目標】

The aim of this course is to examine cultural stereotypes, using Japanese, British and Australian cultures as examples, and to try to find out how much truth there is in them. By looking beneath the assumptions that we often make, we will try to find an effective way of learning how to understand our own and other cultures, and to become aware of the skills needed to communicate with people from cultures other than our own.

【講義計画】

Mini-lectures, audio-visual materials, discussion. There will also be required reading, in English or in bilingual English/Japanese versions. The course will be entirely in English

Outline:

- What is Culture?
- Why compare cultures?
- How can we compare cultures? Culture bumps.
- Stereotypes and Understanding
- What is National Identity? Is there such a thing as national identity?
- Some social concepts in Japan, Britain and Australia
- Similarities and differences between Japan, Britain and Australia
- Individualism and Communalism
- Multiculturalism and Monoculturalism

【成績評価の方法】

Students are required to attend all classes, to lead and take part in discussions, and to submit several reports. There will be no examination

【教科書】

Handouts will be given during the course

【参考文献】

Matsumoto Michihiro and Boye Lafayette de Mente. 2000. 「日本らしあさ」を英語できますか/Japanese Nuances in Plain English. Tokyo: Kodansha Bilingual Books

【備考】

英語による授業科目

科 目 名			
学際科目－地域研究へのいざない			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	深 見 純 生

【講義概要・学習目標】

学際的・学融合的研究としての地域研究のおもしろさを伝えたい。

東南アジアという具体的な地域をとおして、地域研究のいう「地域」というものの成り立ちを考える。地域研究の目標は、その地域を成り立たせている特性（地域特性）あるいは論理（地域論理）を明らかにすることにあるからである。

こうした特性や論理は地域ごとに異なる。そもそも地域は固定的ではなく、それを取り上げる人（あなた、またわたし）ごとに異なるのである。わたしは東南アジアという地域の場合には、生態学（環境と人間のまじわり）と歴史学がとくに必要と考えているが、文化学（人々の生活文化を理解する学）も重要である。

こうした学際的・学融合的な作業をとおして、はてしなく多様で複雑な（したがって一見ひとつのものとして把握しがたい）東南アジアをじつはひとつの世界として理解できるかもしれない。

地域研究にはフィールドワーク（現地体験、臨地調査）が必要だが、映像（ビデオ）で代替する。

【講義計画】

1. オリエンテーション＝学際的と地域研究
2. 東南アジアの複雑にして多様なこと
3. 生態学＝地球で唯一の島の熱帯
4. 森に住む人々
5. 小人口世界としての東南アジア
6. 海に住む人々＝海域世界としての東南アジア
7. 東南アジアの歴史＝開かれた地域の歴史として

【成績評価の方法】

期末テストおよび時々的小テストを総合して評価する。

【教科書】

特定の教科書は用いない。いわゆるノート講義であり、適宜資料を配布する。

【参考文献】

上智大学アジア文化研究所編『入門 東南アジア研究』めこん 1992
池端雪浦編『東南アジア史2島嶼部』山川出版社 1999
京都大学東南アジア研究センター編『事典 東南アジア 風土・生態・環境』弘文堂 1997
その他、授業の中で適宜示す。

【備考】

<02～05生>
共通教養科目として、J生対象外

科 目 名			
学際科目－都市とは何か？			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	芝 村 篤 樹

【講義概要・学習目標】

「都市とは何か」を考えることは、「神とは何か」を考えるのと同様むつかしいと言われる。しかし、日本の総人口の80%が都市に住み、その多くは都市で生涯を送るのが普通となった今日、都市とは何かを知ることの重要性は増している。

この講義では、都市についてのさまざまな定義を考え、世界の都市を歴史的に概観してみたい。その上で、現代都市の抱える問題・課題を明らかにしていきたい。すなわちこの講義は、都市をキーワードに、世界の歴史と現状について学ぼうとするものである。

講義場は、教員と学生が学問を通して切り結ぶ真剣勝負の場である。当然のことではあるが、講義に集中し私語は一切しないことを期待する。

【講義計画】

1. 都市とは何か？都市についてのさまざまな考え方を紹介する。
2. 歴史の都市 世界の都市、日本の都市の歴史を概観する。
3. 日本の都市の特質 とくに歴史のなかから、日本の都市の特質を見出しそれについて考える。
4. 都市の今 都市の現状と問題・課題について考える。

【成績評価の方法】

日常的な4回程度の小レポート、それに試験を総合しておこなう。

【教科書】

とくに無し。必要に応じレジュメ・資料を配布する。

【参考文献】

その都度紹介する。

【備考】

<02～05生>
共通教養科目として、J生対象外

科 目 名			
家族社会学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	畠 中 宗 一

【講義概要・学習目標】

家族問題が多発化する今日、家族と社会についてどのような認識を持つことが可能であろうか。家族と社会の関係を独立的なものとして認識すれば、家族の社会に対する関係性は、理念的には、顕在的次元における「適応」、「不適応」、「過剰適応」、潜在的次元における「抵抗」、「否定」、「無抵抗」として理解される。家族問題が多発化しているということは、現実的には、「不適応」や「過剰適応」の家族が増大していることを意味する。したがって、本講義では、具体的な支援を必要とする家族から出発し、社会変動に対して家族が主体的なあり方を維持することが可能であるように家族支援を行い、家族文化を創造できる主体として機能するように、理念型としてのヘルシー・ファミリーの実現を志向する。

【講義計画】

- 1 いま家族に何が起きているか
- 2 家族とは何か
- 3 なぜ家族は支援を必要とするのか
- 4 安らげない家族
- 5 煩わしさを回避する家族
- 6 コミュニケーションを取れない家族
- 7 手間隙をかけられない家族
- 8 孤立化する家族
- 9 自立志向で疲れる家族
- 10 子育て期における専業主婦の家族
- 11 家族支援の定義
- 12 家族支援の方法

【成績評価の方法】

試験、レポート、出席の総合評価

【教科書】

畠中宗一著（2003）『家族支援論：なぜ家族は支援を必要とするのか』世界思想社

【参考文献】

山根常男著（1998）『家族と社会』家政教育社
 畠中宗一著（2000）『子ども家族支援の社会学』世界思想社
 畠中宗一著（2000）『家族臨床の社会学』世界思想社
 畠中宗一著（2002）『自立と甘えの社会学』世界思想社
 畠中宗一著（2004）『抵抗体としての家族』（『現代のエスプリ』442）至文堂

科 目 名			
家族福祉論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	梓 川 一

【講義概要・学習目標】

1. 社会福祉の原点をおさえ、現実的に人間や社会を理解しながら、家族を考察する。
2. 家族の幸せ、環境と家族、家族の機能、家族の価値に重点を置く。

【講義計画】

1. 家族福祉論の考え方（家族とは、家族の幸せ、家と家族）
2. "（結婚、親子、父母、子育て）
3. 家族福祉の理論
4. 環境と人間と家族（学校、職場、福祉施設）
5. "（地域社会、病院）
6. 福祉の制度・サービスと家族の生活
7. 家族の歴史と日本の事情（子育て不安、虐待、非行、介護）
8. 大人と子ども
9. 家族内の問題（社会福祉問題）
10. 家族の思い出
11. ターミナルケアと家族

【成績評価の方法】

1. 講義の出席と主体的な姿勢
2. 講義中のレポートとテスト
3. レポート（課題は講義中に説明する）
4. 評価は厳密に客観的に行う（評価方法は講義で説明する）

科 目 名			
学校図書館論Ⅰ (学校経営と学校図書館)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	志保田 務

【講義概要・学習目標】

学校図書館に関する総論である。学校図書館について総括的に把握するとともに、「司書教諭科目」の基礎科目という視点から学んで行く。「講義計画」に記したよう講義を展開する。

【講義計画】

- 1 学校図書館概説
- 2 学校経営と学校図書館（１）
- 3 学校経営と学校図書館（２）
- 4 学校図書館と法規・基準（１）
- 5 学校図書館と法規・基準（２）
- 6 学校図書館の管理運営（１）
- 7 学校図書館の管理運営（２）
- 8 学校図書館の管理運営（３）
- 9 司書教諭、学校司書の働き
- 10 学校図書館の授業への寄与（１）
- 11 学校図書館の授業への寄与（２）
- 12 学校図書館の授業への寄与（３）
- 13 学校図書館をめぐるネットワーク（１）
- 14 学校図書館をめぐるネットワーク（２）
- 15 マトメ（テスト）

【成績評価の方法】

インテグレーション科目であるので、毎回の課題（レポート）と出席が重要である。

出席	10%
レポート	40%
テスト	50%

【教科書】

プリントその他による。

【参考文献】

図書館の「指定図書コーナー」の関係科目の棚に備えた図書。

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
学校図書館論Ⅱ (学校図書館メディアの構成)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	志保田 務

【講義概要・学習目標】

本科目は、学校図書館法もとの学校図書館司書教諭講習科目「学校図書館メディアの構成」にあたる。次のような概要と学習目標を有する。

<内容>

- 1) 学校図書館メディアの種類と特性
- 2) 学校図書館メディアの選択と構成
- 3) 学校図書館メディアの組織化

資料排列法：

書架分類法：日本十進分類法（NDC）

図書記号法

別置法：

主題目録法

件名法：基本件名目録法（BSH）

書誌分類法

名称による検索：日本目録規則（NCR）1987年版改訂版

著者検索

タイトル検索

キーワード検索

目録の機械化

多様な学習環境と学校図書館メディアの配置

<目標>

- 1) 学校図書館司書教諭の資格の取得
- 2) それにふさわしい、資料組織化、資料構成に関する知識の取得
- 3) 学校図書館の実務業務に役立つ知識の獲得

【講義計画】

- 1 メディアの構成：資料論
- 2 分類
- 3 書架分類
- 4 日本十進分類法 1
- 5 同上 2
- 6 分類法演習 1
- 7 同上 2
- 8 目録法
- 9 同上（タイトル目録）
- 10 同上（著者目録）
- 11 同上（件名目録）
- 12 機械化目録
- 13 多様な学習環境と学校図書館メディア
- 14 学校図書館メディアセンター論
- 15 テスト

【成績評価の方法】

テスト	70%
課題	20%
出席	10%

【教科書】

志保田務『分類・目録法入門；メディアの構成 新改訂4版』第一法規2005 ￥2000

【参考文献】

図書館の指定図書コーナーを見てください。

科 目 名			
学校図書館論Ⅲ (学習指導と学校図書館)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	林 陸 雄

【講義概要・学習目標】

学校図書館の役割は、児童・生徒の読書意欲を高め、各教科の学習指導、調べ学習、総合学習等の学習指導に寄与することにある。そのためには、常に読書ニーズや学習目的を点検し、それに見合った図書・資料を選択・収集し、適切に活用できる環境を整える必要がある。さらに、彼らの学習を深め、その結果を発表する能力を育成することも求められている。

この講義では、計画的な図書館運営とメディア活用能力育成のための指導について、その基本と実際をとりあげる。授業の展開に当たっては、現場で実践されている先生を、ゲスト講師として適宜お招きする。なお、学校図書館司書の役割と能力は幅広く奥深いものであるから、基礎資格に教員免許を必要とし、教員としての実務経験を10年ほど得ないことには、十全にその役割を遂行し得ないことを十分に認識しておくこと。教員免許と学校司書教諭免許があれば、大学新卒でもその専門職として採用され、直ちにその職務に就くことができるなどと、思いこまないでほしい。

【講義計画】

1. 授業びらき
2. 教育課程の展開と学校図書館
3. メディア活用能力の育成
4. 小学校における実践 1
5. 小学校における実践 2
6. 小学校における実践 3
7. 中学校における実践 1
8. 中学校における実践 2
9. 中学校における実践 3
10. 学校図書館における情報サービス
11. 情報の収集と提供
12. まとめ（テスト）

【成績評価の方法】

出席状況、授業毎の小レポート、ならびに定期試験の結果を総合して評価する。ただし、2／3以上の出席のないもの、遅刻早退の多いもの、授業に積極的に参加しないものは、評価の対象としない。

【教科書】

志村尚夫 監修、朝比奈大作 編著『学習指導と学校図書館』、樹村房

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
学校図書館論Ⅳ (読書と豊かな人間性)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	林 陸 雄

【講義概要・学習目標】

子ども達の豊かな心を醸成するに当たって、読書指導及び読書体験の深化は重要な役割を担っている。この授業では、子どもたちの読書ニーズを涵養し、読書活動を推進・援助し、人間性豊かな醸成に資する学校図書館活動の基本と実際についてとりあげる。

授業の展開に当たっては、ゲスト講師を適宜お招きする。なお、学校図書館司書の役割と能力は幅広く奥深いものであるから、基礎資格に教員免許を必要とし、教員としての実務経験を10年ほど得ないことには、十全にその役割を遂行し得ないことを十分に認識しておくこと。教員免許と学校司書教諭免許があれば、大学新卒でもその専門職として採用され、直ちにその職務に就くことができるなどと、思いこまないでほしい。

【講義計画】

1. 読書と人間
2. 読書資料の種類と活用
3. 小学生への読書指導 1
4. 小学生への読書指導 2
5. 小学生への読書指導 3
6. 中学生への読書指導 1
7. 中学生への読書指導 2
8. 中学生への読書指導 3
9. 読み語り 1
10. 読み語り 2
11. 読み語り 3
12. 環境整備と連携
13. まとめ（テスト）

【成績評価の方法】

授業毎の小レポート、定期試験の結果を総合して評価する。ただし、2／3以上の出席のないもの、遅刻早退の多いもの、授業に積極的に参加しないものは、評価の対象としない。

【教科書】

志村尚夫 監修、赤星隆子 編著『読書と豊かな人間性』、樹村房

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
株式会社会計 (旧簿記Ⅱ)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	河 野 勉

【講義概要・学習目標】

本講義では、初級の商業簿記の履修を終えた学生を対象に、中級程度の商業簿記（株式会社の簿記）を講義する。簿記の学習には、計算方法や簿記的な考え方に慣れることが必要のため、毎時間、練習を解く学習を中心に授業を進める。財務諸表論学習のための基礎知識や公認会計士・税理士等の資格試験受験の出発点として必要な簿記能力の習得を目標とするので、受け身にならず積極的に授業に参加してもらいたい。

【講義計画】

1. 簿記一巡の取引と財務諸表
2. 現金預金取引
3. 有価証券取引
4. 債権債務取引
5. 手形取引
6. 引当金取引
7. 特殊商品売買取引
8. 固定資産取引
9. 株式会社会計
10. 決算整理・財務諸表の作成
11. 本支店会計・合併財務諸表の作成
12. 帳簿組織・仕訳帳の分割・伝票式会計

【成績評価の方法】

定期考査の成績に出席状況、提出物等を加味して、総合的に評価する。

【教科書】

- ・武田隆二著「簿記一般教程」（中央経済社）
- ・加古 宜士・渡辺裕亘（編著）
「新検定簿記ワークブック 2級商業簿記」（中央経済社）

【参考文献】

- 加古宜士・渡辺裕亘（編著）
「新検定簿記講義 2級商業簿記」（中央経済社）

科 目 名			
環境経済論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	浦 出 俊 和

【講義概要・学習目標】

環境問題は、人間の経済活動の結果生じたものであり、人間の生活の豊かさを維持することと環境保全はトレード・オフの関係にある。経済発展と環境保全の両立の上では、環境の経済的特質を理解することが必要不可欠である。

本講義では、環境の特質や環境問題発生要因を経済学の理論を用いて解説するとともに、環境問題解決のための環境政策における経済的手段について取り上げる。

環境経済論では、ミクロ経済学や公共経済学を援用するが、特にミクロ経済学の知識が必要である。ゆえに、経済原論IA－1を履修済みか、同時に履修していることが望ましい。

【講義計画】

1. ゴミ問題と経済学
2. 環境問題と経済学
3. 市場均衡と社会的総余剰
4. 市場の失敗と外部性
5. 公共財と環境財
6. 環境政策における経済的手段
7. PPPの原則とコースの定理
8. 非枯渇性資源問題とゲーム論
9. 環境価値の経済評価

【成績評価の方法】

原則として、学年度末試験の成績によって評価する。ただし、受講生数が適度な限度数内であれば、前期末に中間試験を行い、成績評価に加味する予定。

【教科書】

特に指定しないが、講義概要や講義資料は下記を参照のこと。
<http://rio.andrew.ac.jp/~urade/envi-index.html>

【参考文献】

- 1) 植田和弘（著）『環境経済学』（岩波書店）
- 2) R. K. ターナー・D. ピアス・I. ベイトマン（著）大沼あゆみ（訳）『環境経済学入門』（東洋経済新報社）

科 目 名			
監査論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	バク 朴 テ ヨン 大 栄

【講義概要・学習目標】

バブル経済の崩壊とともに、長期にわたる不況が数多くの企業倒産を引き起こしてきた。倒産企業においては、経営者による不正や財務諸表の粉飾が判明することもある。監査人が適正意見を表明した財務諸表の発行会社が、その直後に倒産することもある。このような状況のもと、監査の中身に対する社会的関心も高まり、2002年1月には監査基準の大幅な改訂も実施された。

監査論は、企業の独断専行を抑え、一般社会との協調を計らせるための会計学、経営学等の応用理論に属する。今年度の講義は、このような社会背景のもと、監査の基礎知識のみならず、現行の監査制度の問題点などにも触れていくことにする。

本講義においては、企業と外部利害関係者とくに投資家との間に介在する証券取引法監査ないし会計監査を中心に、監査に関する基礎知識の理解を目的とする。

【講義計画】

講義の順序を示す。

- 第1章 監査とは（CPA業務）
- 第2章 監査論の考え方
- 第3章 監査の必要性
- 第4章 監査の限界と補強方法
- 第5章 監査の歴史
- 第6章 監査報告書の構造

【成績評価の方法】

定期試験の成績と出席状況を勘案して評価する。

【教科書】

加藤恭彦・友杉芳正・津田秀雄編著
『監査論講義』 中央経済社

【参考文献】

鳥羽至英著 『監査基準の基礎』 白桃書房
山浦久司著 『会計監査論』 中央経済社
その他、講義中に適宜指示する。

科 目 名			
環太平洋圏経営研究			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	隔週	4	岸 本 裕 一

【講義概要・学習目標】

日本を含む環太平洋圏（南アメリカ、東アジア、オセアニア、ロシア極東地域を含む圏域）は、文明の転換期とも言うべき歴史的ダイナミズムの中にある。1998年に起こったアジアの金融危機はその1つの端緒であり、また、中国とアセアンとの自由貿易協定の締結というニュースも以前の常識からは想像しにくいことである。このような中であって、環太平洋地域の経営をめぐる諸問題を学ぶことは、経営学研究に携わるものにとっては必須の要件であり、また、本学の建学の精神である「世界の市民」という視点からも避けては通ることのできない学びとなっている。トピックとしては、経営、経済問題を主としつつも、政治、文化、環境問題などといった関連領域にも触れながら、グローバルかつローカルな問題認識の目とセンスを身に着けたいものである。

【講義計画】

<春学期>

第1回は「環太平洋圏経営研究の実践的課題と方法論」として岸本が講義した後、第2回以降は、韓国、中国、アメリカ、中南米、ロシア極東地域の経済動向と経営の展開について、専門家によるリレー講義となる。

<秋学期>

最新のトピックを盛り込んだ講義、たとえば、小売業のあり方、環境問題への取組などにつき専門家のリレー講義となる。そして、最終回は「取りまとめの講義」を岸本が行なう。（注記）春・秋学期とも詳しい日程は、ゲスト講師等との調整が必要なため、オリエンテーションの時点で公表される。

【成績評価の方法】

- 1. 講義への出席と関与の程度
- 2. レポートの評価

【教科書】

特に指定しない。

【参考文献】

特に指定しない。

【備考】

インテグレーション科目
02B生対象

科 目 名			
管理会計論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	清 水 信 匡

【講義概要・学習目標】

【講義概要】

企業は様々な経営管理の手段を持っていますが、その中核に計画とコントロールシステムがあります。企業における計画とコントロールの主要部分を管理会計が担当しています。したがって、本講義では、まず経営管理活動における計画とコントロールの意義を説明します。次に、計画とコントロールがどのように管理会計技法によって遂行されているのかを説明します。

【学習目標】

- ①計画とコントロールの理解
- ②管理会計の主要な技法の理解

【講義計画】

【講義計画】

- 1 経営管理プロセスにおける管理会計の役割
- 2 計画とコントロール
- 3 短期利益計画
- 4 予算管理
- 5 日常業務の管理会計
- 6 事業部制会計

【成績評価の方法】

試験の成績で評価する。

【教科書】

講義開始後指示する。

【参考文献】

伊丹敬之・加護野忠夫著『ゼミナール経営学入門（改訂版）』
日本経済新聞社1993年
加登豊『管理会計入門』（日経文庫C4 1）日本経済新聞社1999年
門田安弘著『管理会計－戦略的ファイナンスと分権的組織』
税務経理協会 2001年

科 目 名			
企業論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	稲 別 正 晴

【講義概要・学習目標】

企業社会といわれるように、企業は生産や流通などの経済活動において大きな役割を担っている。わが国における株式会社・有限会社の数は二百数十万社にのぼるが、その中で全体のわずか1.5パーセント足らずを占めるに過ぎない、株式が公開されている株式会社の役割はきわめて重要である。

本講義では、株式公開会社を主たる対象として、その仕組みと特徴、企業目的、経営者の役割、組織、経営戦略などを取り上げて論じる。

また、典型的な公開会社の重要な特徴の一つは経営のグローバル化であり、これについても本講義で取り上げる。

さらに、企業活動が社会に及ぼす影響も大きくなり、企業は株主のみならず、多様なステークホルダーに対する責任を問われるようになった。すなわち、今日の企業は持続可能性という観点から、単に経済的側面においてだけでなく、環境、社会の側面においても責任ある経営を問われているのであり、これは重要な課題である。

日本企業はバブル崩壊以前の絶頂期からバブル崩壊後の苦境期へと急激な変動を経験して、いま新しい成長を求めて構造改革に取り組んでいる。この中で、日本の企業システムの特徴は何か、なにを残し、なにを変えるべきか、ということが問われている。したがって、できる限り日本企業の諸課題も取り入れながら講義を進めていきたい。

受講生諸君の積極的な参加を期待している。

【講義計画】

1. 序論－企業と市場
2. 企業形態、株式会社を中心として
3. 企業目的
4. 企業評価と企業成長
5. 所有と経営の分離
6. コーポレート・ガバナンス
7. プリンシパル＝エージェント関係
8. 取引費用と組織形態
9. 経営戦略
10. 日本の企業システム
11. 日本企業の国際経営
12. 企業の社会的責任経営

【成績評価の方法】

試験の成績に自主レポートを加味して評価する。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考文献】

プリントに記載、また講義時に指示する。

【備考】

<02～04生>

共通自由科目として、B生対象外

科 目 名			
技術社会学 [02生～] (旧産業技術論)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	並 川 宏 彦

【講義概要・学習目標】

技術は人間の活動＝生産的労働をより効果的に行うために工夫され、つくり出されたものである。それはつくり出した物、道具や機械などに物化しているが、道具や機械そのものではなく、それらによって測られる一つの概念であり、本来きわめて経済的社会的なものである。人間のみが道具をつくり、それを使って色々な物を生産する。人間の歴史は道具の歴史、物づくりの歴史である。人間の存在が技術を考えていく基盤である。

科学・技術時代といわれる現在の経済社会をよく理解するためには、それを支え、影響する重要な要因の一つである技術の役割を正確に把握する必要がある。

この講義では、人類の起源と技術、生産過程と労働過程、技術の概念、科学の発展、科学と技術の関係、道具から機械へ、機械の概念、工場制度の成立、機械体系からオートメーションへ、そして、戦後日本の技術革新について述べ、現代技術の社会との関わりを考える。

【講義計画】

- 第1章. 人間の起源と技術（人間の存在が技術の基盤人間の属性 物づくりが人間をつくるなど）
- 第2章. 生産過程・労働過程（生産の自然的・社会的側面 労働過程の3要素）
- 第3章. 技術の概念（学説の紹介 技術の定義）
- 第4章. 科学の発展（科学とは 科学と労働 科学のはじまり）
- 第5章. 科学と技術の発展（科学と技術、技術の社会依存性と自律性 物づくりの歴史と科学の発展）
- 第6章. 機械と大工業（機械制大工業勃興期の技術、機械の概念、機械体系）
- 第7章. オートメーション（機械化の発展段階 オートメーションの特質、前提、技術史的意義）
- 第8章. 戦後日本経済と技術革新（技術革新の展開過程 技術貿易 日本技術の特質）を講義する。
- 第9章. 現代技術と社会（家庭電化製品・自動車・情報通信機器等の社会への影響）について考える。

【成績評価の方法】

レポートの提出を課す。期末に試験する。
試験の点数とレポートの評価で成績をつける。

【参考文献】

最初の授業の日に、各章ごとの参考文献を示す。

【備考】

<02～05生>

E・SW・B・L・LE・LI・J生は、博物館学芸員課程科目（随意）として履修

科 目 名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	秋学期	2	鬼塚 光政
02	秋学期	2	鬼塚 光政
03	秋学期	2	小林 哲夫
04	秋学期	2	小村 恒彦
05	秋学期	2	中村 恒彦
06	秋学期	2	中村 恒彦
07	秋学期	2	中村 恒彦
08	秋学期	2	野田 俊範
09	秋学期	2	野田 俊範
10	秋学期	2	野原 康弘
11	秋学期	2	正 亀 芳造
12	秋学期	2	正 亀 芳造
13	秋学期	2	清水 信匡
14	秋学期	2	清水 信匡
15	秋学期	2	清水 信匡
16	秋学期	2	松 尾 順介
17	秋学期	2	松 尾 順介
18	秋学期	2	松 尾 順介

【講義概要・学習目標】

1年生の「大学生活入門セミナー」では大学に慣れることを目的としながら、“読む・聞く・書く・話す”の基礎的な勉強をしました。

この「基礎演習」では、より専門性の高い題材をもとに、“読む・聞く・書く・話す”を勉強します。特に、“書く・話す”，すなわちプレゼンテーションに重点を置きます。自分の考えを相手にわかりやすく伝えることは、社会に出てからも大変重要な能力です。繰り返し、練習しましょう。

<学習目標>

1. 要約を書く
2. 自分の考えをわかりやすく話す

*全回出席を原則とする

【講義計画】

(第1回でさらに詳しい説明があります。)

- 第1回 授業の概略説明と自己紹介
- 第2回 読んで理解し、要約を書く(1)
- 第3回 読んで理解し、要約を書く(2)
- 第4回 読んで理解し、要約を書く(3)
- 第5回 聞いてメモを取り、要約を書く(1)
- 第6回 聞いてメモを取り、要約を書く(2)
- 第7回 聞いてメモを取り、要約を書く(3)
- 第8回 プレゼンテーションについて(ビデオ等)
- 第9回 わかりやすく表現する(1)
- 第10回 わかりやすく表現する(2)
- 第11回 わかりやすく表現する(3)
- 第12回 3年生からの「演習」への取り組み方

*授業順序を入れ替える場合があります。

【成績評価の方法】

レポートなどの提出とその内容、授業中の態度など

【教科書】

適宜指示する

【参考文献】

適宜指示する

科 目 名			
基礎演習＜L＞			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4	青 野 正 明
02	通期	4	有 川 康 二
03	通期	4	梅 山 秀 幸
04	通期	4	岡 田 章 子
05	通期	4	小 野 良 子
06	通期	4	Michael Carroll
07	通期	4	串 田 久 治
08	通期	4	小 池 誠
09	通期	4	小 林 信 彦
10	通期	4	寺 木 伸 明
11	通期	4	原 山 煌

【講義概要・学習目標】

文学部では国際社会で広く活躍しうる人材を育成するために、「実践的英語力」「国際的視野」「現代社会への対応」という3つの方針を掲げている。この演習の目的は、こうした教育理念を具現化するための素養と技能を獲得することである。

「何をどう学ぶか」の指導・助言を行う。とくに文学部でどのような勉学が可能であるか、また望ましいかの履修指導を行う。あわせて学生生活一般にかかわるガイダンスを行う。受講生が2年次以降どのコースを専攻し、またどちらの学科を選択するかを判断するのに役立つことであろう。

具体的な授業内容としては、とくに少人数ゼミナールという利点を生かして、研究発表のしかたやレポートの書き方に習熟することが重視される。これはすべての科目に有益であるが、とくに3年次からの専門演習をスムーズに始めることができるであろう。

【講義計画】

- ①履修指導。履修要項の見方やカリキュラムの概要を知る。
- ②図書館の利用方法
- ③情報センターの利用方法
- ④講義の受け方、ノートを取り方
- ⑤読書指導（内容の把握と評価）
- ⑥文章指導
- ⑦レポートの書き方（問題の発見・設定、資料・情報の収集、情報の解説と総合）
- ⑧プレゼンテーションの方法、自己紹介から研究発表まで

【成績評価の方法】

出席（毎回出席が原則）、積極的な授業参加、課題の提出などにより総合的に評価する。

【教科書】

特に定めない。

【参考文献】

その都度指示する。

科 目 名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	通期	4	軽 部 恵 子

【講義概要・学習目標】

人間の知的活動は「聞く・話す・読む・書く」の4つに集約できます。この演習では、日本語の能力を磨き、論理的思考を習得するための練習をします。そして、相手の話を正確に理解し、資料を多角的に分析し、説得力ある意見をわかりやすく発表し、理路整然とした文章を書くという、大学でのあらゆる勉強に必要な不可欠な技術を学びます。

受講生は高校までの勉強方法にとらわれず、自由な発想と旺盛な好奇心・探求心を持つよう求められます。主要新聞（朝日、読売、毎日、日経）のうち1紙を毎日読み、テレビのニュース番組を見て下さい。授業の素材には身近でタイムリーなトピックを取り上げます。

【講義計画】

1. 聞く：ノートの取り方
2. 話す：プレゼンテーションの基礎、1分間スピーチ；朗読、暗誦；ディベート、交渉術、弁論術
3. 調べる：図書館の使い方、資料収集の方法、ホームページの使い方、新聞の読み方（紙面構成、記事の内容、社説、世論調査、複数紙の比較）
4. 読む：要旨の把握、資料の整理方法、資料の批判的な分析；論理的思考；名文・名作を味わう；名演説を読む
5. 書く：正しい漢字、豊富な語彙；テーマ選定、適切な言葉遣い、明快な論旨と構成、正確で完全な引用
6. その他：グループ研究、映画にみる裁判制度

【成績評価の方法】

出席、授業参加態度（発言、質問など）、課題（内容・期限の遵守）、各種発表、試験を合わせて評価します。履修の大前提として、出席はとくに重視されます。

【教科書】

- ・高島幸広 『すぐ身につく【図解】説明上手になれる本』 P HP研究所 2004年
- ・北村肇 『新聞記事が「わかる」技術』 講談社 2003年
- ・成川豊彦 『成川式文章の書き方』 新訂版 P HP研究所 2003年

【参考文献】

- ※ここに掲げた以外の参考文献は随時指示します。
- ・池上彰『池上彰の情報力』ダイヤモンド社 2004年
 - ・石田晴久 『インターネット安全活用術』 岩波書店 2004年
 - ・井上真琴 『図書館に訊け！』 筑摩書房 2004年
 - ・一校舎国語研究会編 『国語常識問題450』『同レベルアップ編』 永岡書店 2004年
 - ・木幡健一 『「プレゼンテーション」に強くなる本』 P HP研究所 2002年
 - ・小林公夫 『論理思考の鍛え方』 講談社 2004年
 - ・谷岡一郎『「社会調査」のウソ』 文藝春秋社 2000年
 - ・鷲田小彌太『入門論文の書き方』 P HP研究所 1999年
 - ・和田秀樹『＜疑う力＞習慣術』 P HP研究所 2004年

科 目 名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	通期	4	佐 藤 啓 子

【講義概要・学習目標】

基礎演習は、大学教育への適応を容易にするためのアカデミック・ガイダンスである。大学での勉学に必要な基礎的技術の習得を図るため、講義ノートの取り方、情報機器を利用した文献・資料等の検索、図書館利用の方法、研究テーマの設定方法、文献収集の方法、ディベート、報告書・論文の書き方、報告実践、文献購読等を中心とする。それにより、学習のための基本技術の習得およびモチベーションの向上を図る。

また、少人数クラスにより人間関係形成を援助し、大学生活を円滑にするための側面支援を行う。

【講義計画】

前期…ノートの取り方、図書館の使い方、教科書の読み方、報告書の書き方、情報機器の利用法など
後期…ディベート、ゼミレポートの書き方など

【成績評価の方法】

出席とその態度、提出物で決定する。新聞（一般紙）を必ず読むこと。

【教科書】

弥永真生・有斐閣『法律学習マニュアル』
六法を必ず持参すること

【参考文献】

特になし

科 目 名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
03	通期	4	鈴 木 博 信

【講義概要・学習目標】

図書館の利用法など、基本的な学習のノウ・ハウを紹介したあとは、教科書にえらんだ文献を各自が分担して報告し、それをめぐる質疑・応答を中心にすすめる。

【講義計画】

- ・上の概要にふれたように、さいしょの数回は図書館利用法、ノートのとりかたなどの基礎的ガイダンス。
- ・それ以後は、選定したテキストをもとにした参加者各自による、受持ち文献や受持った箇所の「報告」とこれをめぐる討議。
- ・参加者は、受持った報告のさい、レジュメをつくり、全員に配布する。必要に応じて、小レポートを全員に書いてもらうことになる。

【成績評価の方法】

1. 出席状況、受持った報告、質疑応答への参加度で8割、
2. 学期末のレポートで2割、 の見当で評価する。

【教科書】

○開講後、教科書として使用する「文献リスト」を配り、各自で用意してもらう。政治、現代史関係を中心にして、古典作品もふくめて教冊は下らない数になる予定。
○そのほか、「新聞記事・論説」も随時使用する。

【参考文献】

必要に応じて指示する。

科 目 名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
04	通期	4	瀬 谷 ゆり子

【講義概要・学習目標】

大学では、自らの主体的な学修が望まれる。教えられることを正確に理解するだけでなく、自らの考えを裏付ける調査を行い、それを口頭および文書の形で発表して、他人に伝えることが求められる。

社会科学の基礎的な部分にふれることで、これから法学部でどのようなことを学ぶのか、それにはどのような方法が必要であるのかを感じてもらいたい。今後の専門的な研究への期待と関心が深められるように、構成メンバーの自由な意見交換を行える場としたい。

【講義計画】

<春学期>

図書館・情報センター等の施設を利用した文献・資料収集方法のガイダンスを受けた後、まず、各自が関心を持ったテーマについて、以下のような手順でレポートの作成をする。

1. 問題の設定
2. 資料の収集
3. レジューメ(報告原稿)の作成・報告
4. 質問への対応
5. レポート作成

<秋学期>

特定のテキストを使用し、問題設定・報告・議論を行い、それぞれレポートを作成する。

【成績評価の方法】

出席・議論への参加状況およびレポートを総合評価する。

【教科書】

春学期は特に使用しない。

秋学期は、受講者の希望を聞いて決定する。

なお、六法(出版社は問わない)は必ず持参すること。

使い方のガイダンスを行います。

【参考文献】

適宜紹介する。

科 目 名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
05	通期	4	瀧 澤 仁 唱

【講義概要・学習目標】

基礎演習は、大学教育への適応を容易にするためのアカデミック・ガイダンスである。大学での勉学に必要な基礎的技術の修得を図るため、講義ノートの取り方、情報機器を利用した文献・資料等の検索、図書館利用の方法、研究テーマの設定方法、文献収集の方法、ディベート、報告書・論文の書き方、報告実践、文献購読等を中心とし、さらに、事情が許せば、模擬裁判、裁判所・刑務所の見学、情報公開法(条例)利用による実践的学習等の体験教育を行う。それにより、学習のための基本技術の修得およびモチベーションの向上を図る。また、少人数クラス編成により人間関係形成を援助し、大学生活を円滑にするための側面支援を行う。

【講義計画】

憲法、民法、刑法および社会福祉法を中心に行うが、詳細は演習受講者の問題関心をもとに行う。今まで行ってきたものは、以下のとおり(順不同)である。学生の希望によりテーマを選ぶことにする。

1. 男女平等と法
2. 結婚と法
3. 環境と法
4. 労働と法
5. 社会保障と法
6. 介護と法
7. 年金と法
8. 人権と法
9. セクシュアル・ハラスメント
10. 自衛隊
11. P L 法
12. 離婚と法
13. 悪徳商法

【成績評価の方法】

出席、演習での役割およびレポートによる総合評価

【教科書】

必要に応じ指示します。

【参考文献】

必要に応じ指示します。なお、『六法』は法学部生の常識として必ず持ってきて下さい。

科 目 名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
06	通期	4	寺 田 友 子

【講義概要・学習目標】

法の存在は、トラブルに遭遇して認識される。加害者にも、被害者にもなりうる可能性があるトラブルとして自動車による交通事故を挙げることができる。

春学期は、自動車事故に基づく損害賠償の具体的な判例を素材に、六法の使い方・読み方、文献の探索方法、損害賠償の法理、法の適用過程、民事訴訟の概略、最高裁判所判決の読み方等、法学を学ぶ上で基礎的な知識等を学ぶ。あわせて、受講生の体験等に基づいて、道路交通法に基づく運転手の安全確保手段等についても理解を深めたい。

尚、質問等を気軽に言い得るためには、演習生相互の親睦が欠かせないものと考え、早い時期にコンパ等も行いたい。

秋学期は、各自、判例を1つ選択し、レジュメを作り、報告する。他の演習生はその報告に質問等を行い、その報告について、レポートを毎時間提出する。そのことにより、人の報告を聞いて、ノートを取る能力等を養いたい。

このレポートについては、毎回添削して返却したい。

最終的には、自己の報告した判例について、最終レポートを提出する。

【講義計画】

- 春学期
- ガイダンス
 - 自己紹介
 - コンパ
 - 最高裁判所の交通事故判決の輪読
 - 後期に各自が報告する判決の選択
- 秋学期
- 各自選択した判決の報告
 - 最終レポートの提出

【成績評価の方法】

正当な理由なき欠席は、受講を放棄したものとみなす。

授業時間中における質問、自己の報告、授業に対する積極性、毎回のレポート、最終レポート等を総合的に勘案して評価する。

【教科書】

別冊ジュリスト『交通事故判例百選（最新版）』（有斐閣）
 ポケット六法〔平成17年版〕（有斐閣）

【参考文献】

適宜指示する。

科 目 名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
07	通期	4	本 間 法 之

【講義概要・学習目標】

基礎演習は、充実した法学部生活を送るためのアカデミック・ガイダンスです。法学部での勉学に必要な基礎的技術の修得を図るために、講義の受け方、講義ノートの取り方、情報機器を利用した文献・資料等の検索、図書館利用の方法、研究テーマの選び方、文献収集の方法、ディベートの技法、レポートや論文の書き方、研究報告の仕方等についての基礎的な指導を行います。また、事情が許せば、裁判所の見学などによる実践的学習等の体験も積んでもらおうと思います。さらに、学生諸君相互の間に交流の絆が生まれるよう側面から支援をすると共に、学生生活や将来の進路等に関する相談・助言も行いたいと思っています。

【講義計画】

- (1) 法学部初年度生への助言
- (2) 法律学習へのアプローチ
- (3) 初学者のための法律文献案内
- (4) 「六法」の常識
- (5) 法律用語の常識
- (6) 法律解釈の常識
- (7) 判例学習の常識
- (8) 国家試験と法律の学習
- (9) 法律答案・レポートの書き方
- (10) 研究報告の仕方
- (11) その他

【成績評価の方法】

平素の勉学状況（出席・課題等の達成度・受講態度）をもとに成績の評価をします。

【教科書】

最新年度版の「六法」を常に携帯すること。「六法」の購入については、最初の講義の際に詳しく説明します。

【参考文献】

講義の際に、適宜紹介します。

科 目 名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
08	通期	4	松 村 昌 廣

【講義概要・学習目標】

この演習は大学で社会科学を専攻しようとする学生に自己啓発的な学習意欲を持たせ、学問的な方向付けをすることを目的とする。このため主として古典書を読ませながら、「人間生活と社会」について考察させ、現代社会の諸問題を初歩的に研究させる。

1 導入

- 1) 大学の意義と大学生活の仕方について
- 2) 社会学専攻の意義と当基礎演習の目的及び進め方について
- 3) 成績の評価方法（出席・報告討論・レポート）

2 課題問題

- 1) 人間とは何か（人間観）
- 2) 人間社会とはどんな仕組みになっているのか（社会観）
- 3) 政治とはなにか（政治観）
- 4) 学問とは何をどうすることなのか（学問観）

【講義計画】

- 1) カール・セーガン「コスモス」（朝日書店）
- 2) 時実利彦「心と脳の仕組み」（講談社学術文庫）
- 3) シューマン「国際政治」（東大出版会）
- 4) プラトン「国家」（岩波文庫）
- 5) アリストテレス「ニコマコス倫理学」（岩波文庫）
- 6) 「孔子・孟子」の孔子の部分（中央公論社「世界の名著」）
- 7) 同書、孟子の部分
- 8) 「老子・荘子」の老子の部分（同上）
- 9) 同書、荘子の部分
- 10) ホッブス「リバイアサン」（同上）
- 11) ルソー「社会契約論」（岩波文庫）
- 12) トゥクビル「アメリカの民主主義」（「世界の名著」）
- 13) 「ベンサム・ミリ」のベンサムの部分（同上）
- 14) 同書、ミルの部分
- 15) マルクス・エンゲルス「ドイツ・イデオロギー」（岩波文庫）

【成績評価の方法】

- 1 出席 40%
- 2 レポート 60% （4点 X 15回）

評価の目安

80～100%	A
70～79%	B
60～69%	C

【教科書】

各自、上記指定書を購入のこと。

科 目 名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
09	通期	4	南 由 介

【講義概要・学習目標】

基礎演習は、大学教育への適応を容易にするためのアカデミックガイダンスである。大学での学問は、高校までとは違い、教えられるだけではなく、自ら積極的に学ぶ必要がある、いわば自己責任の世界である（怠けても誰も助けてくれません）。それ故、新入生は戸惑うことも多々あろう。本演習は、4年間の学生生活を有意義に過ごすために、勉学に必要な基礎的能力を養うことを目的とするものである。そのために、例えば、情報収集の仕方、レポートの書き方、ディベートによる表現能力の向上等、大学教育で必要となる能力を身につけることによって大学生活が円滑に進むよう、側面的に支援したい。

【講義計画】

まずは、ディベートを行う予定である。テーマは社会情勢一般を扱い、世の中が今、どのように動いているのかを知るとともに、他人の面前で発言することに慣れてもらいたい。

また、図書館の使い方を含め、情報収集技術を身につけていただきたい（これは慣れていないと意外に難しい）。

レポートの書き方や、法律文献の読み方、および判例の読み方についても学んでもらう。

【成績評価の方法】

出席、レポート、演習における積極性等、総合的に評価する。

【教科書】

適時、指定する。

【参考文献】

適時、指定する。

科 目 名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
10	通期	4	安 井 哲 章

【講義概要・学習目標】

法学検定試験や法律系の資格取得も念頭に入れつつ、法律学習の基本的な技術を指導していきます。また、学問としての面白さについてもお話したいと思います。

テキストの熟読と討論を通じて、法律学習の土台を築いてもらいます。少人数で編成されている科目なので、担当教員も含め、演習参加者全員が対話に加われる雰囲気を作ります。

【講義計画】

テキストの熟読と討論を通じて、法律問題に対して漠然とした個人的な感想を抱くレベルから脱却し、根拠に基づいた説得力ある法的議論ができるように指導します。

【成績評価の方法】

平常点

【教科書】

佐藤幸治・鈴木茂嗣・田中成明・前田達明著『法律学入門[補訂版]』（有斐閣）

【参考文献】

その都度指示します。

科 目 名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
11	通期	4	吉 見 研 次

【講義概要・学習目標】

この演習では下記テキストを使用し、内容的には日常の市民生活において遭遇する可能性のある諸問題と法律との関わりを学習する。

ところで、法学部の基礎演習は、大学での学習のためのアカデミック・ガイダンスという共通の性格を有している。この授業でも、学習を進める際の文献・資料の検索収集、学習成果をまとめるレポートの執筆、口頭での報告や討論等を実際に体験する中で、大学生に不可欠な種々の学習能力・技術を体得してもらう予定である。学内の図書館の見学を授業の一環として実施するほか、事情が許せば学内外の諸施設の見学利用等も考えたい。なお、受講学生の履修計画をはじめ学習全般に対する指導助言も積極的に行いたい。

【講義計画】

春学期は毎回、主に数名の学生がテキストの内容を順次紹介報告する形式で授業を運営していくが、図書館等の見学に時間を割くこともある。別に討論の時間等も設けたいと考えている。小論文の書き方を指導した上で、実際に書く作業を課すこともある。

夏休み中および秋以降の課題として、文献・資料を読んだ上でレポートを書いてもらう予定である。（レポートのテーマは各自の選択に委ねるつもりだが、大枠は指定するかもしれない）。秋学期の途中から、毎回、数名の学生が各自のレポートの概要を口頭発表する機会を設ける。それを元に最終的にレポートを完成してもらうことになる。

【成績評価の方法】

出席状況、報告やレポートの内容等を総合的に判断して評価する。

【教科書】

村千鶴子『消費者はなぜだまされるのか』（平凡社新書）

【参考文献】

授業時間中に適宜紹介する。

科 目 名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
12	通期	4	林 錫 璋

【講義概要・学習目標】

大学での勉学に必要な基礎的技術の修得を図るため、講義ノート
の取り方、情報機器を利用した文献・資料などの検索、図書館利
用の方法、研究テーマの設定方法、文献収集の方法、ディベート、
報告書・論文の書き方、文献講読などを中心とした実践的学習を
行う。

【講義計画】

新聞・判例などを題材にして、口述趣旨のノートのとり方、資料
を読んで要点の把握、問題点などについて指摘して是非の議論、
文献の探索法、資料の収集と整理、報告と質疑応答の要領、論文
の書き方などについて演習する。

【成績評価の方法】

報告・討論、レポート、出席状況などをもって総合評価する。

【教科書】

星野英一他編・別冊ジュリスト『判例百選I』第5版（有斐閣）
判例六法（三省堂）
各紙新聞など

【参考文献】

甲斐道太郎編『新現代民法入門』（法律文化社）

科 目 名			
基礎演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
13 14	通期 通期	4 4	田 中 志津子

【講義概要・学習目標】

教師から教えてもらうだけの「受身」の学び方ではなく、文献
を調べる等自分から積極的に行動する学び方を身に付ける。
文献収集方法、文献講読方法、レポート・論文の書き方、報告
手順、議論の進め方等を学び、大学での教育を有効に習得でき
るようにする。

【講義計画】

- ・文献収集方法、出典の表記方法
- ・文献講読・要旨抽出
- ・ノートの取り方、レポート・論文の書き方
- ・報告手順（準備したものを読めばよいわけではない）
- ・議論の進め方（ディベートの練習） など

【成績評価の方法】

出席状況・報告・発言・取組姿勢・提出物等を総合的に評価す
る。
正当な理由のない遅刻・欠席・提出物の未提出などは一切認めな
い。

【教科書】

- ・河野哲也『レポート・論文の書き方入門』第3版（慶応大学出
版会、ISBN：4766409698；第3版 版（2002/12））
- ・小野田博一『絶対困らない議論の方法』（三笠書房、ISBN：
4837970370；（1999/05））

【参考文献】

適宜指示する。

科 目 名			
教育・心理学特講－市民性教育とは？			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	大 野 順 子

【講義概要・学習目標】

1980年代後半から「開発教育」「国際理解教育」という新しい教育概念が日本の学校教育のなかに紹介され、一部の教育関係者の中では積極的に実践され続けてきた。しかし、その広がり思ったほど効果はなかったが、後にグローバル教育と総称され、現在、新たな注目を集めようとしている。特に、なかでも「市民性教育（市民教育・シチズンシップ教育ともいう）」という教育概念が主に西欧諸国から紹介され、現代日本学校教育の中においても導入され、実践が試みられつつある。本講義は市民性教育の歴史的な流れから、具体的な中身、今後の日本の学校教育の中での位置づけ等を、本講義全体を通して探っていく。

【講義計画】

以下の内容（予定）を中心に講義を計画する。

- 市民性教育・シチズンシップ教育について
 - 概要
 - 設立過程
 - PE（政治教育）との関連性
- 海外の事例研究
 - イギリス
 - オーストラリア
 - アメリカ（予定）
 - アジア諸国
- 日本の学校教育における市民性教育
 - 社会科教育・公民科教育との関連性
 - 具体的な実践事例研究（例：お茶の水女子大学附属小学校）
- その他＝予定が合えば学校現場等への訪問を実施予定

【成績評価の方法】

- 出席（遅刻は欠席とみなす）
- 課題レポート
- 試験

以上により、総合的に評価する。

※講義は参加型（ワークショップや討論）も予定しており、講義内容に対する貢献度も評価の重要なポイントとする。

【教科書】

毎時、関連プリント・レジュメ等配布
その他、随時紹介する

【参考文献】

「Citizenship and the challenge of global education」
A.Osler and K.Vincent 著
「21世紀地球市民の育成－グローバル教育の探求と展開」魚住忠久 他著
「シチズンシップの教育思想」小玉重夫 著
「市民教育とは何か－ボランティア学習がひらく」長沼 豊 著
その他、講義中に適時指示する。

【備考】

01生以上対象

科 目 名			
教育学概論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	春学期 秋学期	2 2	竹 中 暉 雄

【講義概要・学習目標】

「教育職員免許法施行規則」で規定されている「教育の基礎理論」のうち、教育の理念並びに教育に関する歴史および思想を内容とする。

教育について考えるためには、人間について考えることから始めなくてはならない。なぜ人間だけ長期にわたる教育が必要なのか、そしてまたなぜそのことが可能なのだろうか。このような疑問に答えるためには、いま急速な発展を遂げつつある脳科学の助けが不可欠となる。

その次に出てくるのは「ではどのような人間をつくるのか」という教育理念の問題である。教育の理念は時代とともに、社会とともに変化する。ルネッサンス以降における代表的な教育論者の見解について概観していくが、そのさいにおいても重要なことは、それらの諸見解と時代背景との関係である。

教育学の学習において留意しておいてほしいことは、いわゆる決まりきった「正解」というものは存在しないということである。神秘性に満ちた人間についての学問なので、仕方のないことである。

毎回、下記の参考文献の内容に対応したプリントを配布するが、途中入室者には講義終了後となるので注意してほしい。

質問や意見は、質問票ないしE-mail（takenaka@andrew.ac.jp）、あるいはオフィス・アワーで受けつけます。遠慮なくどうぞ。

【講義計画】

- 教育の一般的定義と教育の困難性
- 人間の教育必要性
- 人間の教育可能性
- 人間の想像性・創造性
- 遺伝×環境×？
- 生涯学習の可能性と必要性
- 教育上の人間関係
- 近代教育の原理「合自然」
- ルソーによる「子どもの発見」
- 「合自然」の流れと反「合自然」
- 児童中心主義とデューイ教育学
- 連続の教育と非連続の教育
- 「権力作用としての教育」

【成績評価の方法】

論述試験による。

【参考文献】

竹中・中山・宮野・徳永『時代と向き合う教育学』（改訂版）ナカニシヤ出版、2003年

科 目 名			
教育実習Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	3	冷水 啓子
02	春学期	3	竹 中 暉雄
03	春学期	3	林 陸 雄
04	春学期	3	林 陸 雄

【講義概要・学習目標】

教育実習Ⅰは、教職課程で履修してきた学習内容を現実の教育現場に立って検証する実習校での実地実習（2週間）と、その前後の学内実習とで構成され、両者あわせて「教育職員免許法施行規則」で定められている3単位となる。中学校教員免許、高校教員免許のための必修科目である（中学校の教員免許取得のためには別に教育実習Ⅱも履修しなければならない）。

まず学内での事前実習において模擬授業と相互批評を繰り返し、十分な準備をしたうえで、学校の現場で、授業実習、学級経営、特別活動や課外活動の指導などを実地に体験する。実習では教員としての社会的責任が求められる。このことが自覚できない場合、あるいは教員に必要な要件が満たせない場合、途中で実習を打ち切られたり、実習の評価を拒否されることもある。学校長をはじめ各教員による指導にしがた、慎重に行動することが必要である。

再び学内に戻ってからの事後実習では、自己の実習経験を発表し合ったり、本学卒業の教員の講話を聞いたりするなかで実地実習の総括反省を行い、最後に本学教職課程教育全体についての自己評価も行う。

なおこの教育実習Ⅰでは、事故または疾病など正当な理由がないかぎり、遅刻・早退・欠席は認められない。

【講義計画】

1. ガイダンス
2. 模擬授業
3. 模擬授業
4. 模擬授業
5. 模擬授業
6. 模擬授業
7. 模擬授業
8. 実地実習
9. 実地実習
10. 実習体験報告
11. 実習体験報告
13. 卒業生教員の講話
14. 総括・反省

【成績評価の方法】

実習校による評価票、実習簿、および学内実習の評価に基づいて、教職課程委員会が総合的に評価する。

【参考文献】

桃山学院大学教職課程委員会（編）『教職をめざして－教職課程履修ガイド〔2002年度改訂版〕－』
池田・酒井・野里・宇井（編著）『教育実習総説』（学文社）
白井・寺崎・黒澤・別府（編著）『教育実習57の質問』（学文社）

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
教育実習Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	竹 中 暉雄

【講義概要・学習目標】

教育実習Ⅱは、教育実習Ⅰとともに、中学校教諭免許取得のための必修科目である。両方を合わせて、「教育職員免許法施行規則」で定められている5単位となる。教育実習Ⅱでは、教職課程で学んできた内容のうち、とりわけ生徒指導や特別活動など、教科外での活動や指導について、現実の学校現場において実地に検証することを主たる目的としている。

実習Ⅱの実施形態には、春学期の教育実習Ⅰ（学内実習を除いて2週間）と連続してさらに2単位相当時間（一般に＋1週間）実施するものと、教育実習Ⅰとは別に、本学の地域連携実習協力校において年間を通して2単位相当時間、実施するものがある。どちらになるかは、実習校が内諾した期間（2週間あるいは3週間）によって決まるので（2週間の場合は後者となる）、3年次の実習依頼時に中学校（場合によっては高等学校）側とよく相談しておく必要がある。

いずれの形態をとる場合でも、中学校の免許取得希望者は、4年次春学期に行なう履修登録では必ず教育実習Ⅱの登録をしておかねばならない。

実地実習においては、学級経営、特別活動や課外活動の指導などを体験するが、それには当然のこととして教員としての社会的責任の自覚が要求される。その自覚のない場合には、実習を途中で打ち切られたり、評価を拒否されたりすることもある。校長や各教員の指導によく従うとともに、逸脱した「生徒指導」やプライバシーの暴露などをしないよう十分注意を払わなければならない。

正当な理由の無い欠席・遅刻は認められないことはもちろん、無断欠席・遅刻は絶対に許されない。

【講義計画】

最初のガイダンス、終了時の総括・反省以外、すべて学校現場での実施実習。

【成績評価の方法】

実習校による評価表、実習簿、学内実習の評価に基づいて、教職課程委員会が総合的に評価する。

【参考文献】

桃山学院大学教職課程委員会編『教職をめざして－教職課程履修ガイド〔2002年度改訂版〕』
池田・酒井・野里・宇井編著『教育実習概説』学文社
白井・寺崎・黒澤・別府編著『教育実習57の質問』学文社

科 目 名			
教育社会学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	通期	4	山 内 乾 史

【講義概要・学習目標】

本講義は、教育の世界で起きる諸問題を社会学的視点から据えていく方法について検討することを目的とします。教育は自己完結的な閉じたシステムではなく、政治・経済他の社会システムと密接な関わりを持つシステムであり、それ故に教育の世界だけを見つめるのではなく、巨視的な分析方法が必要とされます。本講義では、欧米との比較（特にアメリカ合衆国とイギリス）を通じて、また明治維新以降の流れを歴史的に振り返ることを通じて、現代日本の教育に起きる諸問題を解説していきます。講義は多人数になることが予想されるので、ビデオによる資料提示が多くなることと思います。

【講義計画】

1. イントロダクション
2. 教育社会学とは何か：日英米を比較検討していく基本的枠組みについて
3. 日本における学歴社会論（1）～（3）
4. アメリカ合衆国の教育史（1）～（3）
5. イギリスの教育史（1）～（3）
6. 日本における学力低下問題と改革（1）～（3）
7. アメリカ合衆国における学力低下問題と改革（1）～（3）
8. イギリスにおける学力低下問題と改革（1）～（3）
9. 日本における大学改革と教育機会の変化（1）～（2）
10. アメリカ合衆国における教育機会とマイノリティ（1）～（2）
11. イギリスにおける大学改革（1）～（2）
12. まとめ：日英米の教育問題と教育改革

【成績評価の方法】

成績評価は試験（75％）と授業終了時に課すレポート（25％）によります。具体的な方法については講義の時に指示します。ただし、欠席過多の学生には受講資格を認めない場合があります。

【教科書】

麻生誠・山内乾史編『21世紀のエリート像』（学文社、2004年）

【参考文献】

山内乾史・原清治『学力論争とは何だったのか』ミネルヴァ書房、2004年

【備考】

E・SW・B・L・LE・LI・J生は、教育職員養成課程科目（随意）として履修

科 目 名			
教育心理学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	春学期 秋学期	2 2	冷 水 啓 子

【講義概要・学習目標】

近年、学校では、不登校やいじめに加え、授業中私語に興じて教師の話を聞かない、無断で立ち歩いたりふざけ合ったりして授業に集中できない、我慢ができず些細なことですぐに切れる、といった児童・生徒の行動傾向が問題視されている。では、このように日常的に起こりうる困難な事態に対し、教師はどのように対処すればよいであろうか。適切に対応するためには、子どもの発達の様相や一般的な教授・学習方法に精通しているうえに、さまざまな発達障害、心理障害、問題行動への臨床援助に関する基礎的知識・理解やセンスをも併せもつ必要がある。すなわち、平常の授業を円滑に運営するだけでなく、問題の発生を未然に防いだり、起こった問題の原因を究明して解決へ導いたりするための知識・技能、柔軟な判断能力や根気強い態度が必要とされるのである。

そこで、この「教育心理学」では、生涯発達の観点から「乳幼児、児童・生徒の心身の発達および学習の過程」に関する理論と教育臨床活動について学び、実践的指導力を身につけるための基礎作りを目指す。

なお、これは、教育職員免許法により規定されている「教職に関する科目」の一つとして、本学教職課程で必修とされている随意科目である。授業に関連する補足資料は、コンピュータ、OHC、VTR、印刷物などにより適宜提供する。受講生の主体的・積極的な授業参加を期待している。

【講義計画】

1. はじめに
 2. 生涯発達
 - 1) 生涯発達とは
 - 2) 発達の原理
 - 3) 発達段階理論：フロイト、エリクソン、ピアジェなど
 3. 乳幼児期
 - 1) 乳幼児期における心身の発達
 - 2) 発達障害とその臨床援助
 4. 児童期・思春期
 - 1) 児童期・思春期の心理発達
 - 2) 児童期・思春期の心理障害と臨床援助
 5. 青年期
 - 1) 青年期の心理発達
 - 2) 青年期の心理障害と臨床援助
 6. 全体のまとめ
 7. 学期末試験
- 〔但し、授業の進捗状況によってこの計画内容を変更することがある〕

【成績評価の方法】

主体的・積極的な授業への出席・参加を重視する。学期中、必要に応じて簡単なレポート課題を与える。学期末には論述試験を実施する。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。

【教科書】

教科書は使用しないが、参考文献欄にある大村彰道（編）『教育心理学Ⅰ』および下山晴彦（編）『教育心理学Ⅱ』を、個人で購入するか指定図書として本学図書館の書架に配架されたものを借りるかして、予習・復習で活用すること。

【参考文献】

APA（編）高橋他（訳）『DSM-Ⅳ―精神疾患の分類と診断の手引き―』（医学書院）
藤永保（著）『幼児教育を考える』（岩波新書）
福祉士養成講座編集委員会（編）『新版社会福祉士養成講座10 心理学』（中央法規）
三浦香苗 他(編)『教員養成のためのテキストシリーズ2 発達と学習の支援』（新曜社）
大村彰道（編）『教育心理学Ⅰ―発達と学習指導の心理学―』（東京大学出版会）
下山晴彦（編）『教育心理学Ⅱ―発達と臨床援助の心理学―』（東京大学出版会）
高橋恵子・波多野誼余夫（共著）『生涯発達の心理学』（岩波新書）

科 目 名			
教育相談			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2	和 知 富士子
02	秋学期	2	

【講義概要・学習目標】

中央教育審議会の答申に示された目標『『生きる力』を身に付け、新しい時代を切り拓く積極的な心、正義感・倫理観や思いやりの心など豊かな人間性をはぐくむ』方策と呼応するのが教育免許法の改定であり新設された必修科目「教育相談」である。

現代社会の諸矛盾は直接・間接に子どもたちの生活に影響し、子どもたちを強いストレス下においている。その結果として様々な神経症や心身症が小学生段階から現出している。これらの諸現象は、本人または家族に起因するとみなされ勝ちであり、いっそう子どもたちを追いつめている。

子どもたちが抱えている諸問題を教育相談という観点からとらえ直し、適切な支援・援助をする窓口としての機能を学校教育活動として位置付けたい。その機能を遂行するための基礎・基本について概説する。履修する以上、必ず教職に就くという強い目的意識を持って受講すること。

【講義計画】

1. 授業びらき・生徒指導・教育相談とは
2. 生徒指導の体制・教育相談の体制
3. 問題の把握・問題の理解
4. 教師・生徒関係
5. 学校不適応・いじめと孤立
6. 神経症・心身症
7. 非行・勉強嫌い・無気力
8. カウンセリングⅠ
9. カウンセリングⅡ
10. 行動療法
11. 交流分析
12. 家族療法
13. まとめ

【成績評価の方法】

毎回の小レポート、期末考査の結果を総合して行う。
ただし2/3以上の出席のないもの、遅刻早退の多いもの、授業に積極的に参加しないものは、評価の対象としない。

【教科書】

高野清純 監修
佐々木雄二 編
『図でよむ心理学、生徒指導・教育相談』福村出版

【参考文献】

授業中に適宜紹介する

科 目 名			
教育法規			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2	竹 中 暉 雄
02	秋学期	2	

【講義概要・学習目標】

「教育職員免許法施行規則」で規定されている「教育の基礎理論」のうち、教育の社会的・制度的な事項として教育法規を取りあげる。

教育とは本来、年長者と年少者、親と子との間で展開される私事的な営みであり、国家や公権力が関与すべき性質のものではなかった。しかし近代公教育制度が成立するに伴い、教育は公的に、つまり制度的、国家的に行なわれるようになり、ここにそれを運用するための教育法規が不可欠なものとなってきた。

法令というのは体系的なものである、その学習も体系的・逐条的にすべきではあるが、単調さを避けるために、この講義では主として、さまざまな教育問題にどのような法令が関係しているのか、という視点から論じていく。毎回、プリントを配布するが（途中入室者には講義終了後）、下記の参考文献に含まれる内容も多い。質問や意見は、質問票ないしE-mail (takenaka@andrew.ac.jp)、あるいはオフィス・アワーで受けつけます。積極的にお願いいたします。

【講義計画】

1. 教育法規の種類および憲法教育条項
2. 教育基本法
3. 義務教育をめぐる諸問題（1）
4. 義務教育をめぐる諸問題（2）
5. 学校教育と学習指導要領
6. 指導要録の作成目的
7. 教育法規と教師（1）
8. 教育法規と教師（2）
9. 教育法規と教師（3）
10. 教科書と教育法規
11. 学校保健・給食と教育法規
12. 情報公開と教育
13. 勅令主義・法律主義をめぐる問題

【成績評価の方法】

論述試験による。

【参考文献】

竹中・中山・宮野・徳永『時代と向き合う教育学』（改訂版）ナカニシヤ出版、2003年

科 目 名			
教育方法学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2	冷 水 啓 子
02	秋学期	2	

【講義概要・学習目標】

この「教育方法学」では、伝統的な反復練習に基づく学習とともに、子どもが知的好奇心や探求心をかき立てられながら主体的に学び、学ぶ楽しさ・充足感を味わうことのできる学習とは何かを考える。現行の学習指導要領では、「生きる力」の育成が重視されているが、それは「自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する能力」といった側面を持つ。そこで、このような学習能力を育成するための「教育の方法および技術」に関する理論、および授業（教科学習および総合的な学習の時間）への活用法を学び、教師としての実践的指導能力の基盤作りを目指す。

具体的には、はじめに、教授・学習活動および教育測定・学習評価に関する基礎的理論を概観し、子どもの学習意欲を促進させる効果的な教授・学習方法や教育メディアの特徴について学ぶ。つぎに、子どもの年齢や個性に即した学習過程を支援するためにコンピュータ教育利用を取り上げ、その利用の仕方や利用に際する問題点についてコンピュータ実習を通じ体験的に学習する。

なお、これは教育職員免許法により規定されている「教職に関する科目」の一つとして、本学教職課程で必修とされている随意科目である。授業に関連する補足資料は、コンピュータ、O H C、V T R、印刷物などにより適宜提供する。受講に際し、各自Word や Excel などの基本的操作を習得しておくことが望ましい。受講生の主体的・積極的な授業参加を期待している。

【講義計画】

1. はじめに
 2. 教授・学習活動
 - 1) 学習とはなにか
 - ①条件づけ
 - ②認知理論と観察学習
 - 2) 学習と認知：推理と問題解決
 - 3) 学習への動機づけと学習意欲：知的好奇心と内発的動機づけ
 3. 教授・学習過程
 - 1) 授業における教授・学習過程
 - 2) 個人差と学習指導
 4. 教育測定と学習評価
 - 1) 教育測定
 - 2) 学習評価
 - 3) 心理テストの利用
 5. コンピュータの教育利用：その理論と技法（コンピュータ実習を含む）
 - 1) コンピュータの教育利用に関する諸問題
 - 2) インターネットの利用
 - 3) コンピュータを活用した報告書の作成
 6. 全体のまとめ
 7. 学期末試験
- 〔但し、授業の進捗状況によってこの計画内容を変更することがある〕

【成績評価の方法】

主体的・積極的な授業への出席・参加を重視する。学期中、必要に応じて簡単なレポート課題を与える。学期末には論述試験を実施する。それらの結果に基づき総合的に評価を行う。

【教科書】

教科書は使用しないが、参考文献欄にある大村彰道（編）『教育心理学Ⅰ』および下山晴彦（編）『教育心理学Ⅱ』を、個人で購入するか指定図書として本学図書館の書架に配架されたものを借りるかして、予習・復習で活用すること。

【参考文献】

波多野諄余夫・稲垣佳世子（共著）『人はいかに学ぶか―日常的認知の世界―』（中公新書）
 情報教育学研究会 他（編）『インターネットの光と影』（北大路書房）
 桃山学院大学情報センター（編）『ユーザーズガイド』（2005年度

版）
 西之園晴夫・宮寺晃夫（編）『教育の方法と技術』（ミネルヴァ書房）
 大村彰道（編）『教育心理学Ⅰ―発達と学習指導の心理学―』（東京大学出版会）
 下山晴彦（編）『教育心理学Ⅱ―発達と臨床援助の心理学―』（東京大学出版会）
 多鹿秀継（著）『教育心理学―「生きる力」を身につけるために―』（サイエンス社）
 梅本堯夫 他（編）『心理学―心のはたらきを知る―』（サイエンス社）

科 目 名			
教職演習			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	秋学期	2	冷水 啓子
02	秋学期	2	竹 中 暉 雄
03	秋学期	2	冷水 啓子
04	秋学期	2	竹 中 暉 雄

【講義概要・学習目標】

国際化時代・グローバル化時代の今日、世界の人々の日常生活が国境を越えて多様に影響し合っている事実を認識し、国際社会と関わり合っていく感性と行動力を育成することは、世界市民を目指す本学の学生にとって極めて重要な課題である。教職を目指す、時代を担う児童・生徒の育成に携わろうとするものには、なおさらのこと、この感性と行動力の育成は不可欠の課題であるといえる。

この演習の大テーマは、「人類に共通する地球的課題とは何か」ということであるが、個別テーマとしては、人間尊重・人権尊重の精神を基礎に、①「異文化理解」（国際理解、国内異文化理解、民族対立、地域紛争と難民など）②「環境問題」（ゴミ、電磁波、化学物質、人口と食料など）③「人権・福祉」（男女共同参画、少子化、高齢化、障害者理解と共生、家庭のあり方など）④「情報化社会」（携帯電話、インターネット、個人情報保護など）等が考えられる。

各自はいずれかの個別課題を選択したうえでグループに分かれ、各グループ内で検討した内容を模擬授業形式で発表しつつ、それらの内容をグループの共同責任の形で授業案にまとめ、最後に授業案に基づく研究授業を行なう。

【講義計画】

1. 授業目標と方法について。個別テーマの概略紹介。各自のテーマ決定
2. 学校現場での授業例の研究（ゲスト講師）
3. 学校現場での授業例の研究（ゲスト講師）（講師の都合により日程変更の可能性あり）
4. 個別テーマに関する発表と討議
5. 個別テーマに関する発表と討議
6. 個別テーマに関する発表と討議
7. 個別テーマに関する発表と討議
8. 個別テーマに関する発表と討議
9. 授業案の作成
10. 授業案の作成
11. 授業案に基づく研究授業
12. 授業案に基づく研究授業
13. 授業案に基づく研究授業
14. 総括・反省

【成績評価の方法】

出席、発表、討議への参加度、授業案、研究授業、最終レポートなどによって総合的に評価する。

【教科書】

使用しない。

【参考文献】

その都度、紹介する。

科 目 名			
教職概論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2	竹 原 正 浩
02	秋学期	2	

【講義概要・学習目標】

1997年の教育職員養成審議会答申を受けて教育職員免許法が改訂された。その改訂ポイントは、教科に関する科目を半減させ、それに替えて教職に関する科目の重視、とくに生徒指導力の向上と教職の使命感の高揚に力点が置かれたことだ。

それを受けて、この科目も必修教科として新設されたのである。求められていることは、教職の使命感についての自覚と、教職への志向と一体感の形成・強化である。昨今の青少年がしめす様々な教育問題の背景に、教員の在り方が種々取りざたされている。さらにこの困難な状況を克服するためにも、教員の在り方にたいする厳しい目が注がれている。

生徒の成長を援助し、生徒の成長をもって自己の喜びとする仕事が教職である。そのための基本的な思想・感性・知識・技能を修得していくためのガイドラインとして、この科目が位置づけられている。履修する以上、教職に就くという強い目的意識でもって受講してほしい。

実施可能ならば各種の学校を訪問し、参観、補助活動も課外に課す予定である。

【講義計画】

1. 授業開き（教職全般について）
2. 教師の仕事
3. 求められる教師像
4. 教科指導（1）
5. 教科指導（2）
6. 教科外指導（1）
7. 教科外指導（2）
8. 学級経営
9. 進路指導
10. 校務分掌
11. 今日の教育問題
12. 教育現場と教員のありかた（まとめ）
13. テスト

【成績評価の方法】

数回の小レポート、期末考査の結果を総合して行う。ただし、3分の2以上の出席のないもの、遅刻早退の多いもの、授業に積極的に参加しないものは、評価の対象としない。

【教科書】

使用しない

【参考文献】

授業中に、適宜紹介する。
講義教材資料プリントを配布する予定。

科 目 名			
行政法Ⅰ (旧行政法)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	寺 田 友 子

【講義概要・学習目標】

行政法とは、日本国憲法が規定する権力分立の下での行政の組織、作用及び手続に関する法全体をいう。日本国憲法は、生存権の保障等、種々様々な行政活動を要請している一方、行政の組織及び活動に関しては原則上、法律で規律することを要求している。それゆえ、行政法の数も多く、現行法規の80%を占める。しかし、法律を中心とする行政法は一律でないために、基本とする法典も存在せず、法令の数も非常に多い。この多様で広範にわたる行政法を総合的に認識するために、行政法学は抽象的な学問的概念を駆使して理論体系化を行ってきた。本講義は「行政をその行為形式によって把握し、説明する」伝統的な行政法の理論体系に基づいて、その行為形式中、最重要と解されてきた「行政行為」概念を中心に、その他の行為形式をも含めて理解を深めることを目標とする。その際、行政行為概念の基盤には取消訴訟が存在する。その帰結である判決を検討することによって、行政の執行過程についても理解を深めたい。その際、情報公開制度についても認識したい。また、行政の違法行為に対する救済手段である取消訴訟における問題点等について理解を深めたい。また、行政の違法行為によって生じた国民の損害に対する救済手法＝国家賠償についても検討したい。とともに、事後的救済だけでは十分に救済されないので、行政手続法に代表される事前手続についても理解を深めたい。基礎知識を確実に理解するために、択一問題等を適宜解答してもらおう。

憲法、民法を履修した上で、受講してほしい。

【講義計画】

- 1 取消訴訟の一つの判決
- 2 情報公開制度
- 3 取消訴訟の概略
- 4 国家賠償
- 5 法律による行政法の原理
- 6 行政組織と行政立法
- 7 行政行為の概念と種別
- 8 行政行為の瑕疵
- 9 職権取消と撤回
- 10 行政手続
- 11 行政計画
- 12 行政強制
- 13 行政調査
- 14 行政指導

【成績評価の方法】

基本的には、テストで成績評価を行うが、出席、及び授業時間内に行うテスト・チェックペーパー等も評価に加味する。

【教科書】

小高剛『行政法総論（二版）』2001年 りょうせい
『ポケット六法 平成17年版』（有斐閣）

【参考文献】

『行政法判例百選Ⅰ・Ⅱ（第4版）』有斐閣
塩野宏『行政法Ⅰ』有斐閣
原田尚彦『行政法要論』学陽書房
芝池義一編『判例行政法入門（第3版）』有斐閣

科 目 名			
行政法Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	寺 田 友 子

【講義概要・学習目標】

多様な内容をもつ行政法中、地方自治法及び公務員法を中心に講義する。その理由は、地方分権化の動きの中で、地方自治体はその機能を拡大し、その重要性を増しつつある。民主主義の学校といわれる地方自治体の根本規範である「地方自治法」に理解を深めることは、行政法の修得という点だけでなく、民主主義的な国民、住民の人格形成にとっても不可欠と考える。更に、そこで勤務する職員の法的地位について理解を深めるために、「地方公務員法」を「国家公務員法」と対比して講義する。

春学期において「行政法Ⅰ」を履修して受講することが好ましい。「行政法Ⅰ」で不十分にしか講義できなかった地方自治体における行政組織及び行政立法について理解を一層深める。地方自治法または公務員法をめぐる「行政行為」等についても、その学問的概念について改めて理解する。

【講義計画】

地方自治法

- 1 地方自治の本旨とは
- 2 地方公共団体の種類と区域
- 3 地方公共団体の住民
- 4 普通地方公共団体の事務と立法権
- 5 普通地方公共団体の議会
- 6 普通地方公共団体の執行機関
- 7 長と議会との関係
- 8 地方公共団体の財務
- 9 国と地方公共団体との関係

地方公務員法

- 1 公務員の意義
- 2 公務員の種類
- 3 労働基本権の制約
- 4 地方公務員法の特例（地方公営企業の職員・消防職員・警察職員）
- 5 人事行政機関（任命権者と人事委員会・公平委員会）
- 6 公務員の任用
- 7 勤務条件
- 8 公務員の責任

【成績評価の方法】

基本的には、テストで成績評価を行うが、出席、及び授業時間内に行うテスト・チェックペーパー等も評価に加味する。

【教科書】

『ポケット六法 18年版』（有斐閣 2004年10月出版予定）
その他、後期開講前に指示する。

【参考文献】

別冊ジュリスト『地方自治判例百選（第3版）』（有斐閣）
その他、講義中に指示する。橋本勇『地方公務員法講義（第2次改訂版）』（ぎょうせい）

科 目 名			
共通教養特別講義－現代社会と組織倫理			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	谷 口 照 三

【講義概要・学習目標】

今日、倫理学に関心が集まっている。それは、今進行しつつある「社会における諸関係」の変化や改革と無関係ではない。倫理とは、「健全な諸関係の構築」を下差させたり、先導したりする価値的態度であり、知恵である、と思われる。倫理や倫理学への関心の増大は、「健全な諸関係の構築」を人々が希求していることの証左である。

この講義で目指そうとしているのは、主として、現代社会における代表的な組織である企業を取り巻く（環境倫理、生命倫理などとの関連を含む）倫理的問題状況を取り上げ、その問題の性質を理解すると共に、そのような問題を克服する契機となりうる視座を学ぶことである。その際、とりわけ、かかる問題の背景となっている「組織社会としての現代社会とその変容」を理解すること、さらに倫理問題を惹起することにおいても、その解決へのプロセスを動かすことにおいても重要な係わりをもつ「組織の本質」に着目することが大切である。

組織は強力なパワーをもつ。それは、組織が「固有の倫理的価値」を創り出すことと無関係ではない。倫理的な生活を生きようとする社会の人々の能力は、この様な「組織の倫理」に深く影響されている。それ故に、社会が、またわれわれがより「健全な諸関係の構築」を望むならば、組織が非倫理的および倫理的になる可能性とそこで働く人々や他の利害関係者の行動へのそれらの影響により関心を持たなければならない。さらに、それと同時に、働く人々や他の利害関係者に対しても、いい意味でも悪い意味でも「組織の倫理」の形成に参加しているということへの自覚が要請されよう。

以上のような点を21世紀に生きる皆さんと共に考えていきたいと思っている。

【講義計画】

- I. 緒言－組織倫理を語る視座－（第 1、2回）
- II. 組織社会としての現代社会とその変容（第 3、4、5、6回）
- III. 現代社会の倫理的問題状況－企業倫理、環境倫理、生命倫理を中心に－（第 7、8、9、10、11、12、13、14、15回）
- IV. 現代社会における組織の重要性とその意味の変容（第16、17、18、19回）
- V. 組織における倫理と組織の倫理（第20、21、22回）
- VI. 組織の責任と組織倫理の創造（第23、24、25、26回）
- VII. 結言－組織倫理的パラダイムの可能性－（第27、28回）

【成績評価の方法】

不定期小テスト、レポートおよび秋学期末試験の総合評価。

【教科書】

使用しない（レジュメを配布する）。

【参考文献】

必要に応じて適宜指示する。

【備考】

<02～05生>
共通教養科目として、J 生対象外

科 目 名			
共通教養特別講義－現代の日本企業			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	正 亀 芳 造

【講義概要・学習目標】

長期にわたる経済の停滞、厳しさを増す国際競争、経済の成熟化、人口高齢化の進展、等々。21世紀を迎えた日本企業は、こうした経営環境の激変に直面し、新たな対応を模索しています。本講義の目的は、現代の日本企業に焦点を当て、その基本的な仕組みや行動を明らかにすることにあります。新聞記事やビデオも適宜活用しながら、現代の日本企業の現実の姿を可能な限り多面的に解明したいと思います。

【講義計画】

講義では、次のような論点を扱う予定です。

1. 日本企業を取り巻く経営環境の変化
2. 企業とは：個人企業と株式会社
3. 株式会社の機関
4. 日本企業のコーポレート・ガバナンス
5. 企業の社会的責任と社会貢献
6. 地球環境問題と企業の対応
7. かわる企業金融
8. 企業間関係
9. 中小企業
10. 経営戦略
11. 経営組織
12. 進む人事・雇用制度改革
13. 経営の国際化

【成績評価の方法】

①期末試験の成績、②レポート、③講義中の小テストの成績、を総合して評価します。

【教科書】

使用しません。

【参考文献】

吉田和夫・大橋昭一編著『基本経営学用語辞典』（三訂版）同文館、2003年。
深山 明・海道ノブチカ編著『経営学の基礎』同文館出版、2003年。
その他、講義中に適宜指示します。

【備考】

<02～05生>
共通教養科目として、J 生対象外

科 目 名			
共通教養特別講義－社会学の基礎			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	原 田 達

【講義概要・学習目標】

もう一度社会学を学びなおしたい学生さんを対象にして、社会学の基礎から講義します。

社会学はつかみ所のない学問だと言われています。しかし、そんなことはありません。社会学は「人と人の関係＝人間関係」を研究する学問であり、「集団」を研究する学問であり、そして「文化」を研究する学問です。ただこのことだけを押さえてくればいいのです。これが社会学の研究の対象、つまり料理の素材です。ね、簡単ですね？

あとは切り口の問題です。いわば料理の仕方。この料理の仕方を講義でお話しします。

【講義計画】

- ・社会（科）学の発想
- ・人間と社会
- ・言葉の問題
- ・コミュニケーション・相互行為
- ・集団
- ・役割
- ・若者文化
- ・映画の読み方
- ・日本文化
- ・社会学の巨人たち

このようなテーマを予定していますが、予定通りに進行するかどうかは不明です。シラバスは修正されます。それが「生きた」シラバスです。

【成績評価の方法】

試験をします

【教科書】

使用しません

【参考文献】

その都度指示します

【備考】

<02～05生>

共通教養科目として、J生対象外

科 目 名			
共通教養特別講義－日本の安全保障			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	松 村 昌 廣

【講義概要・学習目標】

本講義は「英語で」勉強するコースであり、「英語を」勉強するコースではありません。想定する英語力は英検1級、TOEFL550点、もしくは、同等の英語力です。具体的には、欧州からの交換留学生、帰国子女、英語圏で本格的な大学の講義を受けたことがある学生です。毎回、論文や本の章など、50ページ程度の読書を要求し、セミナー形式での討論を全て英語でおこないます。したがって、英語力が不足する学生に対する配慮は全くありません。

This lecture is designed primarily for foreign exchange students, and English is used as the only instructional language. Yet, those who have good command of English are welcomed. Every week, students are required to read some fifty pages, such as a working paper or a book chapter, and actively participate in class discussion.

【講義計画】

This seminar-style course will examine Japan's national security during and after the Cold War, with emphasis on the continuity and discontinuity of alliance relationships between the United States and Japan. The assigned readings and lectures will cover geostrategic environment of East Asia, dynamic changes of the triangular relations among the United States, Japan, and China, and durability of the U.S.-Japan alliance. Taking this course, students are expected to learn basic historical and policy perspectives as related to Japan's national security.

Students are required to read the selected papers from the Japan Project of the National Security Archive located at George Washington University <<http://www.gwu.edu/~nsarchiv/japan>>.

【成績評価の方法】

Students are required to write an essay (4000 words) on a specific topic to be given.

For the final grade, the essay accounts for 70 %, while class participation for 30%.

【教科書】

Mike Mochizuki, TOWARD A TRUE ALLIANCE: RESTRUCTURING US-JAPAN SECURITY POLICY, Brookings Institution Press, 1997.

【参考文献】

1)Gallicchio, "Japan in America security policy"
2)Schaller, "The Nixon Shock and US-Japan strategic relations 1969 - 74" 3)Soeya, "US-Japan-China relations and the opening to China" 4)Green and Murata, "The 1978 Guidelines for the US-Japan Defense Cooperation" 5) Smith, "Do domestic politics matter?: the case of US military bases in Japan" 6)Chinworth, "Defense-Economic Linkages in US-Japan relations" 7)Murayama, "Studies on US-Japan military technology relations" 8)Oberdorfer and Izumi, "The United States and Japan and the Korean Peninsula: coordinating policies and objectives"

【備考】

<02～05生>

共通教養科目として、J生対象外

英語による授業科目

科 目 名			
共通自由特別講義－ I T 活用の実際			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	藤 間 真

【講義概要・学習目標】

新聞・雑誌にURL(いわゆるホームページアドレス)が掲載されない日が無くなったことからわかるように、IT(Information Technology)は私たちの社会に深く根付いている。

本講義では、各業種でITを活用している現場の管理職の皆さんにおいでいただき、最先端の企業の活用状況を話していただく。また、余裕があればどのような人材がIT技術の現場で必要なのか、大学でどのような勉強をすることを企業側が望むのかについてもお話いただけるようお願いしている。

なお、受講生への連絡は大学のメールを用いるので最低限の操作はできるようになっていることを前提とする。

【講義計画】

- 1 回目にオリエンテーション及び基礎知識の講義を行う。
- 2 回目以降に関しては講義計画執筆時(2005年1月)現在交渉中である。

参考の為に過去の類似科目の実績を下表に示す(順不同)。

	題 目
鐘淵化学工業	「情報システムの変遷と情報システム現場の問題」
ドコモAOL	「インターネットビジネスの展望」
ダイエー	「流通業の世界のトレンド」
武田薬品工業	「情報システムの開発の方向」
日本電気	「公共事業の情報システム」
新日本製鐵	「顧客管理SCM(CRM)の最前線の実状」
松下電器	「全社的情報セキュリティ管理」
ダイキン	「企業経営とIT」
ダン	「靴下屋の情報戦略」

最終回にまとめを行う。

【成績評価の方法】

毎回の出席・受講態度及び最終レポートに基づき総合的に評価する。

詳細は1回目のオリエンテーション時に説明する。

【参考文献】

講義中に指示する。

【備考】

インテグレーション科目
04・05生対象(J生を除く)

科 目 名			
共通自由特別講義－海のアジアと日本史 I			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	藤 田 加代子

【講義概要・学習目標】

近年、日本の歴史を日本国内に限定せず広くアジア史の中でとらえなおそうという試みが盛んである。この講義では、中国、朝鮮、さらに東南アジア諸地域を含めた海域アジアに日本を位置づけ、海外貿易・外交・文化交流などの対外関係を通じて日本という国がどのように形作られてきたのかを考えたい。特に、ヨーロッパ人が初めてアジアの海に現れた16世紀以降、彼らの貿易・植民活動・キリスト教布教を通じて新大陸やヨーロッパまでをおおう世界経済が形成されたが、そうした世界の一体化の過程で日本が果たした役割にはとくに注目していきたい。さらに、19世紀以降の日本によるアジア諸国の植民地化と現地の人々の抵抗についても、現代の日本社会に深くむすびついた問題として検討する。

【講義計画】

時代順に、下記の大きなテーマ群に従い、各回の講義でトピックを絞って解説する予定である。

- (1) はじめに：海から日本史を見るときは？
- (2) 考古学と海の日本史
- (3) 「日本」の誕生と中国の影響
- (4) 古代日本と中国の政治・文化
- (5) 拡大するアジアの交易と中世日本
- (6) 近世グローバリティと徳川日本
- (7) 幕末維新期の国際関係
- (8) アジア間貿易の発展と明治日本
- (9) 大日本帝国とアジアの人々

【成績評価の方法】

出席、参加度、講義時の小テスト、中間および期末レポートなどを総合的に判断して評価する。

【教科書】

教科書は特に定めない。

【参考文献】

田中健夫編著『世界歴史と国際交流－東アジアと日本』日本放送出版協会、1989年。
『新視点日本の歴史』全7巻、新人物往来社、1993年。
(その他、講義中に随時紹介する。)

【備考】

04・05生対象(J生を除く)

科 目 名			
共通自由特別講義－海のアジアと日本史Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	藤 田 加代子

【講義概要・学習目標】

This lecture/discussion course is primarily designed for exchange students from abroad to provide an introductory historical overview of Japan's foreign relations from the earliest times to the beginning of the 20th century, and to place that knowledge in the wider context of world history. The course is also open to all students of St. Andrew's University who are enthusiastic about considering Japanese history from a new perspective and participating in discussions with overseas students about the issues described below.

The main focus will be on Japan's interaction with other states or regions of maritime East and Southeast Asia(e.g., China, Korea, Taiwan, Vietnam, Thailand, and Indonesia) and their effects on Japanese economy, society, and material culture. Japanese imperial rule on the life of the people in these areas and the popular protest against the rule, the decolonisation, and the aftermath will also be addressed. Moreover, the process through which Japan has been incorporated into the "World Economy" since the coming of the Western merchants and missionaries in the 16th century will be deeply analysed. Topics that will be reviewed include state-formation, diplomacy, foreign trade and domestic economy, agricultural development, material culture, religion, scholarship, and ethnic identity.

The language of the course is English.

【講義計画】

Thematic blocks that will be covered during the course are as follows(subject to change):

- 1 Introductory overview
- 2 Prior to statehood: archaeology and the mythology of the ancient Japanese
- 3 The Yamato age and the Chinese impact
The early Chinese influence on Japan's institutions and culture
- 4 Classical Japan: The aristocratic age
Official missions to China and their political and cultural impacts
- 5 To the late-medieval ages
The Mongol invasions(1274 & 1281) and their impact
North-and Southeast Asia in the Age of Commerce
The coming of the Portuguese and Christianity
Japan's Invasions of Korea(1592 & 1597)
- 6 Tokugawa Japan(1603-1868): The making of *sakoku*(closed country)
From the Portuguese to the Dutch East India Company:
Trade and science
The relationship with the Kingdoms of Korea and Ryukyu and the Ainu
Changing material culture: Foreign products and import substitution
- 7 Meiji Japan(1868-1912) and its foreign relations
The coming of Western powers and the unequal treaties
Okinawa, Taiwan, and Korea: Japan's overseas expansion
The development of intra-Asian trade and the world economy
Japan and World War I (1914-1918)

【成績評価の方法】

Assessment will be based on classroom participation, one oral presentation(10 minutes), and two essays, that is, one short essay(around 1,500 words) and one final research paper(around 3,000 words). Students will be required to give an oral presentation on a topic related to his/her short essay one week before submission of that essay. Late

submissions(without a good reason) will not be accepted for credit. Students are expected to attend all classes, and to come to the classes well prepared to contribute to the discussions.

Classroom participation 20%

One oral presentaion 20%

One short essay 20%

One long essay 40%

【参考文献】

Duus, Peter. 1998. *Modern Japan*. 2 d.ed. Boston:Houghton Mifflin.

Reid, Anthony. 1988 and 1993. *Southeast Asia and the age of commerce, 1450-1680*. Vol. I and II.

New Haven: Yale University Press.

Toby, Ronald. 1984. *State and diplomacy in early modern Japan: Asia in the development of the Tokugawa bakufu*. Princeton: Princeton University Press.

Totman, Conrad. 1981. *Japan before Perry: A short history*. Berkeley: University of California Press.

(More suggested reading will be announced in class)

【備考】

04・05生対象（J生を除く）

英語による授業科目

科 目 名			
共通自由特別講義－職業を考える (旧経済学特講－職業を考える) (旧経営学特講－職業を考える) (旧経営・商学特講－職業を考える) (旧社会学特講－職業を考える) (旧学科特殊講義－職業を考える)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期	2	日 下 隆 平
02	秋学期	2	

【講義概要・学習目標】

全国の大学卒業生数の3割が転職する時代であるという。これは主として自分と選択した職業とのミスマッチが原因であるといわれる。このような事態を招かないためにも低年時からの職業意識や自分の適正を見いださなければならない。そのためにはまず業界の現状を知っておくことが大切である。この講義では現役の職業人（本学卒業生を含む）から、業界の現状、企業組織の構図、仕事内容の多様性など体験を交えて講義していただくことを通して、働くことの意味とその実際の姿を学ぶとともに、学生自らの人生における職業の意味を考えてもらうことが、この講義の主要な目的である。この講義の性格からして、実際の就職活動を始める前の3回生以下の受講が望ましい。

【講義計画】

次のような内容を予定している。ただし、講義紹介以外は、諸般の都合により、変更されることがある。

「講義紹介」・「各業界（建設・薬品・自動車・教育・百貨店・旅行・金融・製菓・ファッション・リクルート）・役所・NPOなどにおける「職場の現状紹介」、「新聞を読む」、「履歴書の書き方」など12回程度を予定。

「社会貢献」という働くことの意味を学ぶだけではなくて、自分の進路を考える上でのヒントや履歴書の書き方など、実際に就職活動をする上でも役に立つ知識も身につけるように工夫する予定である。

【成績評価の方法】

小テストと学期末試験などをベースに評価する。

【教科書】

特に使用しない。

【備考】

インテグレーション科目
04・05生対象（J生を除く）

科 目 名			
共通自由特別講義－職業を考える・福祉 (旧社会福祉特講－職業を考える)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	石 田 易 司

【講義概要・学習目標】

社会福祉学科卒業後、職業人として活動する場としての社会福祉施設、社会福祉機関、NPOなどの現場で働く人の話を聞き、自身の職業観を身につけると共に、大学生活で学ぶ目的を明確にする。

【講義計画】

1. 大学生活と就職
2. 福祉職場の概要
3. 高齢者・障害者・児童施設 1
4. 高齢者・障害者・児童施設 2
5. 高齢者・障害者・児童施設 3
6. 地域福祉の現場 1
7. 地域福祉の現場 2
8. NPO/NGO
9. 社会福祉機関・行政
10. 精神保健福祉現場
11. 病院
12. 職業観と大学で学ぶこと

【成績評価の方法】

出席とレポート

【備考】

インテグレーション科目
04・05生対象（J生を除く）

科 目 名			
共通自由特別講義－知的財産と技術革新			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	辻 洋一郎

【講義概要・学習目標】

「知的財産」という言葉を聞いたことがありますか？この用語はしらなくても、音楽の著作権とか特許という用語は聞いたことがあるかも知れません。知的財産は皆さんの生活にすでに密接に関係していますし、まして企業で働く方々は知らないではすまされません。

この講義では、知的財産のなかでとりわけ企業経済・活動に密接な「特許」に焦点をあてて、その制度や企業の現場での実態などを経済学・経営学の観点から講義します。企業での実例や具体的な商品／サービスに即して講義しますので、好奇心さえあれば、予備知識は必要ありません。

【講義計画】

順不同で、次の項目について、講義します。

- ①「特許」の概要（骨組みと考え方）
- ②先端企業の「特許戦略」
- ③経済成長と「技術革新」
- ④「技術革新」を生み出すダイナミクスとマネジメント

【成績評価の方法】

試験またはレポート、及び講義への参加態度で評価します。出席はとりません。

【教科書】

必要に応じて講義中に指示します。

【参考文献】

必要に応じて講義中に指示します。

【備考】

04・05生対象（J生を除く）

科 目 名			
共通自由特別講義－日本アニメの諸相			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	藤 森 かよ子

【講義概要・学習目標】

In this course the works of four representative Japanese animators--Osamu Tetsuka, Hayao Miyazaki, Katsuhiro Ohtomo and Mamoru Oshii--will be examined and analyzed. This course may lead you to explain the phenomenon that contemporary Japanese animation films have been highly evaluated as "cool" by the young people all over the world.

To learn Japanese high culture enables you to perceive Japanese ethics and aesthetic: what Japanese people should be and what they should do.

To experience Japanese low culture (pop culture) helps you to grasp the illusions and desires which Japanese people subconsciously hold: what they are and what they want to be. So you should learn Japanese animation films!! Welcome to the world of ANIME !

【講義計画】

Lecture1: A Short History of MANGA and ANIME

Lecture2--Lecture 4:The World of Osamu Tetsuka

Lecture5--Lecture 8:The World of Hayao Miyazaki

Lecture9--Lecture11:The World of Katsuhiro Ohtomo

Lecture12--Lecture14:The World of Mamoru Oshii

Lecture15: Thinking the Future of ANIME

【成績評価の方法】

Attendance and discussion and the semester-end paper.

【教科書】

No textbooks. Handouts made by Kayoko Fujimori.

【参考文献】

Susan J. Napier, ANIME: from Akira to Princess Mononoke. Palgrave, 2001.

Annie Allison. Permitted and Prohibited Desires: Mothers, Comics, and Censorshi in Japan. U of California P, 2000.

Frederic L. Schodt. The World of Japanese Comics. Kodansha, 1983.

日経B P社技術研究部編『進化するアニメ・ビジネス』日経B P社、2000年

多田信『これがアニメ・ビジネスだ』廣済堂出版、2002年

草薙聡志『アメリカで日本のアニメはどう見られてきたか？』徳間書店、2003年

【備考】

英語による授業科目
04・05生対象（J生を除く）

科 目 名			
共通自由特別講義－日本互助運動史論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01 02	春学期 秋学期	2 2	生 瀬 克 己

【講義概要・学習目標】

時に「競争の原理」を強調することがある。しかし、「人間」は集団で生きており、「共同体」の一員として自己の生存を保障してきたのであった。「人間」は<ことば>でつながっているし、専門化した分業によって作上げられた部品は、協業という協力関係によって組立てられ、製品にされる。そして、社会に役立っている。さらには、自然の一部と考えるなら、人間は自然に依存して生きているともいえる。

要するに、私たちの生活のなかでは、競争の原理よりは、愛情や友情が基本であるように、社会のなかでは、「助け合い」「支え合い」も重要な意味と役割を持っている。したがって、ここでは、この「助け合い」のあり方を近代史の中から、具体的に学んでいくことにする。

【講義計画】

- はじめに
- われわれの社会と「支え合い」の歴史
- 労働組合と働く人の連帯の問題
- 地域の人々の「助け合い」と「支え合い」
－「隣組」の意味と役割をめぐって
- 生協運動の歴史と地域社会
- ボランティア活動の登場とその意味
- おわりに

【成績評価の方法】

講義中にミニ・レポートを作成してもらい、このミニ・レポートの評価に加えて、期末に実施する2,000程度のレポート（またはペーパー・テスト）の結果によって、最終の評価をする。

【教科書】

指定はしない。

【参考文献】

必要に応じて提示する。

【備考】

04・05生対象（J生を除く）

科 目 名			
共通自由特別講義－「日本人」意識の形成Ⅰ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	藤 田 加代子

【講義概要・学習目標】

「われわれ日本人」とは、一体どんな人々なのだろうか？それは果たして歴史上どの時期をとっても、等しく均質な集団だったのだろうか？

この講義では、日本の対外関係の歴史を追いながら、現代のマルチカルチュラル（多文化）でマルチエスニック（多民族）な日本社会がどのように生まれてきたのかを考える。とりわけ、16世紀に初めてヨーロッパ人と接触して以来、日本人のエスニック・アイデンティティが外交・貿易・文化交流・植民地化など様々な局面を通じてどう変化してきたかを重点的に検討したい。歴史的な分析だけでなく、現代のポピュラーカルチャーにおける韓流ブームや、外国人労働者に支えられる国内産業のあり方などにも着目し、そこに浮かび上がる「日本人」や「他者」の像について考えてみよう。

【講義計画】

時代順に、下記の大きなテーマ群に従い、各回の講義でトピックを絞って解説する予定である。

- はじめに：「日本人」をめぐる言説
- 考古学と日本人のアイデンティティ
- 東アジアのなかの中世日本
- ヨーロッパ人／キリスト教との接触
- 変わる世界像：「日本型華夷秩序」の形成と徳川日本
- 植民地化と「日本人」
- 現代日本の自画像：ポピュラーカルチャーと外国人労働者

【成績評価の方法】

出席、参加度、講義時の小テスト、中間および期末レポートなどを総合的に判断して評価する。

【教科書】

教科書は特に定めない。

【参考文献】

小熊英二『単一民族神話の起源－<日本人>の自画像の系譜』新曜社、1995年。

青木保『「日本文化論」の変容－戦後日本の文化とアイデンティティ－』中公文庫、1999年。

田中健夫編著『世界歴史と国際交流－東アジアと日本』日本放送出版協会、1989年。

（その他、講義中に随時紹介する。）

【備考】

04・05生対象（J生を除く）

科 目 名			
共通自由特別講義－「日本人」意識の形成Ⅱ			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	藤 田 加代子

【講義概要・学習目標】

While this lecture/discussion course is primarily designed for exchange students from abroad to provide an introductory historical overview of the formation process of today's multicultural and multiethnic society of Japan since the ancient era, the course is also open to all students at St. Andrew's University who are enthusiastic about considering Japanese history from a new perspective and participating in discussions with overseas students about the issues described below. Stress will be placed on the period from the mid-16th century during which Japan's first encounter with Europeans (the Portuguese) took place. We will explore how the intra-Asian economic and cultural contacts and diplomacy as well as the European expansion to Asia during this period brought gradual but fundamental changes in Japanese ethnic identities, and what the effects of this dynamic interaction were on the coming colonial course of the Japanese nation state.

Various aspects will be examined in order to give students a deeper understanding of the current situation in Japan within a historic context: the transformation of Japanese ethnic identities, the relationships with a different ethnic group inside Japan, economic and diplomatic relations with other states or regions in East and Southeast Asia, the influx of foreign workers, and the changing image of Asia in popular culture.

The language of the course is English.

【講義計画】

Thematic blocks that will be covered during the course are as follows (subject to change):

- 1 Introductory overview
- 2 Archaeology and Japanese identity
- 3 Japan under the Chinese World Order
 - Historical relations with China
 - First contacts with Europeans and Christianity
- 4 The making of the "Japanese World Order" in the Edo period
 - The making of *sakoku* (closed country)
 - The changing image of the Chinese
 - "Red hair barbarians": The Dutch
 - The relationship with the Ainu and the Kingdoms of Korea and Ryukyu
- 5 Modern Japan and the myth of the homogeneous nation
 - The coming of Western powers and the opening of Japan
 - The emergence of the *kokusai kekkon* ("international marriage")
 - The myth of the homogeneous nation 1: Korea, Taiwan, and Okinawa
 - The myth of the homogeneous nation 2: Korea, Taiwan, and Okinawa
 - The burakumin*
- 6 Contemporary multiethnic/multicultural Japan and politics
 - International labour migration
 - Popular culture and Japanese ethnicity

【成績評価の方法】

Assessment will be based on classroom participation, one oral presentation (10 minutes), and two essays, that is, one short essay (around 1,500 words) and one final research paper (around 3,000 words). Students will be required to give an oral presentation on a topic related to his/her short essay one week before submission of that essay. Late submissions (without a good reason) will not be accepted for credit. Students are expected to attend all classes, and to come to the classes well prepared to contribute to

the discussions.

Classroom participation 20%

One oral presentation 20%

One short essay 20%

One long essay 40%

【参考文献】

Danoon, Donald. Mark Hudson, Gavan McCormack, and Tessa Morris-Suzuki, eds. 1996.

Multicultural Japan: Palaeolithic to postmodern. Cambridge: Cambridge University Press.

Oguma, Eiji. 2002. *The genealogy of 'Japanese' self-images.* Melbourne: Trans Pacific Press.

Lie, John. 2001. *Multiethnic Japan.* Cambridge, Mass. and London: Harvard University Press.

(More suggested reading will be announced in class)

【備考】

04・05生対象（J生を除く）

英語による授業科目

科 目 名			
共通自由特別講義－博物館における諸問題 (旧博物館学特講－博物館における諸問題)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	井 上 敏

【講義概要・学習目標】

本講義は博物館学芸員課程の専門科目を補足するために開講する。博物館概論では博物館の諸機能についての講義を行ったが、更にその諸機能の深い内容については時間的な問題もあって、十分とはいえない。そこで博物館の諸機能のうち「展示」「教育」「修理」「保存」の4点に絞って、各分野で優れた実績を上げておられるゲスト講師に講義を行っていただく。またキッズ大阪、奈良国立博物館文化財保存修理所の見学を行い、実際の現場での知見を深める。

この講義は博物館概論や各論等の知識がないと理解することは難しいため、受講生は博物館学芸員課程受講生が望ましい。少なくともこの分野に興味がある学生の受講を希望する。

【講義計画】

- (1) ガイダンス (井上)
- (2) 博物館における展示の作り方 (1) (鮫島)
- (3) 博物館における展示の作り方 (2) (鮫島)
- (4) チルドレンズミュージアム (1) (小原)
- (5) キッズ大阪見学を学祭期間中振替
- (6) 奈良国立博物館・文化財保存修理所見学を学祭期間中に振替
- (7) チルドレンズミュージアム (2) (小原)
- (8) 博物館における修理 (1) (大林)
- (9) 博物館における修理 (2) (大林)
- (10) 保存科学の諸問題 (1) (宇田川)
- (11) 保存科学の諸問題 (2) (宇田川)
- (12) まとめ (井上)

(ゲスト講師)

鮫島泰平 (乃村工藝社)

小原千夏 (プランニング・ラボ)

大林賢太郎 ((株)文化財保存/奈良国立博物館文化財保存修理所)

宇田川滋正 (京都造形芸術大学歴史遺産研究センター)

※この授業計画は予定であり、講師や内容について変更の可能性がある。

【成績評価の方法】

受講態度及び出席点、レポートを総合的に勘案して評価する。

【教科書】

講義で必要な文献について案内する。

【参考文献】

講義で必要な文献について案内する。

【備考】

インテグレーション科目

04・05生対象 (J生を除く)

科 目 名			
共通自由特別講義－博物館の職を考える (旧博物館学特講－博物館の職を考える)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	井 上 敏

【講義概要・学習目標】

この科目は共通自由科目であるが、博物館学芸員課程の入門講座として開講する。本講義の目的は博物館や文化財保護に関する基本的な知識を習得すると共にこの講義履修後の学芸員課程での学習をスムーズにできるようにしていくことである。

本講義では博物館や文化財保護の仕事をしている3人の桃大OBによって、それぞれの仕事や職について分かりやすく講義していただく。また博物館や文化財保護の職に就くために、在学中どのように学習に取り組んでいけばよいのか等の相談も気軽にしてほしい。

12月の土曜午後、日曜、祝日のうちの1日を使って大阪人権博物館の見学をする予定である。交通費は自前である。

尚、科目の性格上1年生、博物館学芸員課程の受講を考えている学生、或いはそのような職への就職を将来希望している学生が受講することが望ましい。

【講義計画】

- (1) ガイダンス (井上)
- (2) 文化財保護の職について (1) (尾谷)
- (3) 文化財保護の職について (2) (尾谷)
- (4) 文化財保護の職について (3) (尾谷)
- (5) 博物館学芸員について (1) (松永)
- (6) 博物館学芸員について (2) (松永)
- (7) 博物館学芸員について (3) (松永)
- (8) 博物館の未来について (1) (山根)
- (9) 博物館の未来について (2) (山根)
- (10) 大阪人権博物館の見学 (12月の土曜午後、日曜、祝日のうちの1日に振替)
- (11) 博物館の未来について (3) (山根)
- (12) まとめ (井上)

(ゲスト講師)

尾谷雅彦 (河内長野市教育委員会：桃大OB)

松永真純 (大阪人権博物館学芸員：桃大OB)

山根啓史 (NTT西日本：桃大OB)

※あくまで予定であり、講師や内容の変更の可能性がある。

【成績評価の方法】

受講態度及び出席点、レポート等を総合的に勘案して評価する。

【教科書】

なし

【参考文献】

講義で案内する。

【備考】

インテグレーション科目

04・05生対象 (J生を除く)

科 目 名			
キリスト教学 (旧キリスト教概論)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	滝 澤 武 人

【講義概要・学習目標】

「新約聖書」は人類全体の大いなる知的世界遺産であり、今でもなお思想・宗教・文学・歴史・芸術などに新鮮な光を投げかけています。この講義の目標は、その中の一つである「マルコ福音書」を読みとおすことにあります。わずか40頁ほどの分量ですが、そこにはさまざまな現代的問題が含まれています。したがって、それをしっかりと読みとおすだけでも、かなりの教養を獲得することができるでしょう。特に、人権・ボランティア・福祉・教育などに関心をいだく真面目な学生諸君の熱心な受講に期待しています。なお、「福音書」とは「イエス」という人間に関する「歴史文学」であり、その「研究」には「信仰」の有無などはまったく関係なく、誰でも自由に受講することができます。

【講義計画】

「マルコ福音書」のテキストを最初から最後まで精読すること……それがこの講義のすべてです。シンドイ作業ですが、なんとか頑張ってください。

【成績評価の方法】

試験（50点）・授業感想文（30点）・レポート（20点）の予定です。第1回目の授業時間に公表します。「真面目さ」と「ヤル気」を最優先にしますので、「遅刻」や「私語」や「居眠り」などは厳禁です。

【教科書】

新共同訳『新約聖書』（日本聖書協会）
 テキストを自分自身で読むことが中心課題ですので、毎時間必ず自分の聖書を持参してください。なお、現在持っている聖書があれば、それでも結構です。

【参考文献】

滝澤武人『人間イエス』（講談社現代新書）
 〃 『マルコの世界』（日本キリスト教団出版局）
 〃 『福音書作家マルコの思想』（新教出版社）
 田川建三『原始キリスト教史の一断面』（勁草書房）

【備考】

<02～05生>
 共通自由科目として、SS生対象外

科 目 名			
キリスト教史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	伊 藤 高 章

【講義概要・学習目標】

ユダヤ教、イスラム教、キリスト教は、世界の宗教の中で一つの系列に属し「一神教」の宗教と考えられている。これらの宗教の共通点と違いを、人類史の中で検証する。特に、今年度は、現代社会の諸課題に、キリスト教がどのように取組んできたのかをめぐって、他宗教の取組みとの比較を通して考える。

【講義計画】

以下のテーマを含む。
 1. 宗教と現実社会
 2. 諸宗教の現世観、来世観
 3. 宗教とスピリチュアルケア
 4. キリスト教の国家観とその歴史
 5. キリスト教の福祉観とその歴史
 6. キリスト教の戦争論とその歴史

【成績評価の方法】

学期末レポート

【教科書】

初回授業で指示する。

【参考文献】

初回授業で指示する。

【備考】

<02～04生>
 共通自由科目として、LE・LI生対象外

科 目 名			
銀行論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期集中	4	中 野 瑞 彦

【講義概要・学習目標】

銀行の基本的な機能を理解したうえで、経済社会における銀行の役割を歴史的かつ実践的に検証する。特に、1980年代以降の金融自由化と国際化の中で、日本の経済政策と金融政策がいかに変化してきたのか、日本の銀行はどのような行動をとってきたのか、更にはその経済的影響はどんなものであったのかを検証・考察する。更に、バブル経済における経済政策と金融政策、銀行の行動を検証した上で、不良債権問題とその持つ意味について考察する。また、金融市場におけるリスクの増大、自己責任原則の拡大に鑑み、金融におけるリスクとは何か、また現在進行している市場型間接金融のシステムはどんな内容なのかについても学習する。

【講義計画】

以下の項目につき、銀行と金融機関を巡る問題点を探求する。

1. 銀行の仕組みと役割、金融政策における銀行機能の位置づけ
2. 金利規制下での実体経済と銀行機能の関係
3. 金融自由化と銀行経営の変化、公的金融との区別化
4. リスク・マネジメントとしての銀行の役割
5. バブル期の金融政策と銀行行動、及びその実体経済への影響
6. バブル崩壊後の金融危機問題
7. ゼロ成長下での銀行機能のあり方と銀行経営の展望
8. 新たな金融システム（市場型間接金融）の仕組み

【成績評価の方法】

試験による

【教科書】

別途指示する

【参考文献】

鹿野 嘉昭「日本の金融制度」（東洋経済新報社）
西村 吉正「日本の金融制度改革」（東洋経済新報社）
津田 和夫「現代銀行論入門」（経済法令研究会）
堀内 昭義「日本経済と金融危機」（岩波書店）

科 目 名			
金融論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	木 村 二 郎

【講義概要・学習目標】

新札発行、量的緩和政策解除、ペイオフ凍結解除、メガバンクと大手証券の再編など、貨幣・金融に関するニュースを絶えず私たちは見聞きする。このような現代の経済社会を理解する際に、貨幣・金融に関する知識や理論は必要不可欠である。この講義では、貨幣・金融に関する基礎理論、現代金融と日本経済、情報化・グローバル化と現代金融を3つの柱にして解説していく。貨幣・金融に関する理論・政策・制度・歴史を日本経済と世界経済の新しい動向を踏まえて、出来るだけ分かりやすく講義する予定である。学習目標は、新聞・テレビなどの経済ニュースが簡単に理解できるような基礎的な力を養い、経済社会についての見識を持てるようになることである。

【講義計画】

テキストに沿って、第Ⅰ部「現代金融の基礎」を9回、第Ⅱ部「現代金融と日本経済」を10回、第Ⅲ部「情報化・グローバル化と現代金融」を9回に分けて講義を進める。また、適宜小テストを実施して、理解度を確認する。

【成績評価の方法】

学年末試験を基本に据えたうえで、授業時間に実施する小テストを加味して総合的に評価する。

【教科書】

川波洋一・上川孝夫編『現代金融論』有斐閣ブックス、2004年。

【参考文献】

関根猪一郎・木村二郎・大畠重衛・小西一雄著『金融論』青木書店、2000年。
日本銀行金融研究所編『新しい日本銀行：その機能と業務』有斐閣、2004年。
三橋規宏他『ゼミナール日本経済入門（2005年度版）』日本経済新聞社、2005年。

科 目 名			
ケアマネジメント (旧ケアマネージメント)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	8月集中	2	濱 田 和 則

【講義概要・学習目標】

講義概要；要介護等高齢者支援の機関で活用されているケアマネジメントの手法や過程を、講義・演習・フィールドワーク（課題・宿題になります。）を交えて実体験的に学習する。講義等の中では関連領域である、介護保険制度の概要・契約、コストマネジメントやマネジドケア、苦情解決の実際、介護事故対応・防止を主体としたリスクマネジメントについても、可能であれば少しでも触れたいと考えている。

なお、要介護者等と接する経験がないと講義内容の理解が困難なことが予想されるため、要介護者等施設などでの実習を終了、または開講までに終了予定の人の履修を希望します。

なお、講義は出席と講義時に実施する演習の参加、およびテストで行う予定です。

学習目標；理論的な理解と同時に演習・フィールドワークを通じて実体験し、将来実務に役立つ援助技術方法概要の習得を目指す。また、この分野に関心を持ってもらうことにより、実践現場へのマンパワーの輩出をあわせて目標とする。

【講義計画】

- 第一回 講義計画とケアマネジメントの概要①～ケアマネジメントの成り立ち～
- 第二回 ケアマネジメントの概要②～介護保険制度におけるケアマネジメント～
- 第三、四回 ケアマネジメント過程①～入口、ケース発見、申請・要介護認定調査～
- 第五回 ケアマネジメント過程②～認定審査会、インテーク、サービス利用契約～
(インテーク・サービス利用契約演習；二人ペアで重要事項、契約内容説明)
- 第六回 ケアマネジメント過程③
～アセスメント (1) 生活ニーズとアセスメント～
- 第七回 ケアマネジメント過程④
～アセスメント (2) ニーズアセスメントとアセスメント表～
(アセスメント表作成演習；資料、ビデオからアセスメント表を記入)
- 第八回 ケアマネジメント過程⑤
～ケアプラン (1) ケアプランの種類、構造と社会資源～
- 第九回 ケアマネジメント過程⑥～ケアプラン (2) 居宅サービス計画原案作成～
- 第十回 ケアマネジメント過程⑦～サービス担当者会議～サービス担当者会議演習
- 第十一回 ケアマネジメント過程⑧～モニタリングと苦情処理・苦情解決の方法～
- 第十二回 テスト

【成績評価の方法】

講義内容を記入した出欠票と演習時の課題物提出、レポートまたは試験により評価。

【参考文献】

浜田和則 他編「介護支援専門員のしごとを支えるQ&A」中央法規出版、2000
 (財)長寿社会開発センター編「改訂介護支援専門員専門員基本テキスト」2003
 白澤政和 編「福祉キーワードシリーズ ケアマネジメント」中央法規出版、2002

科 目 名			
経営学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4	鬼 塚 光 政

【講義概要・学習目標】

市場経済が地球大の規模に浸透した現代では、その担い手である企業は、財貨・サービスの販売者・購入者として、人々への働く場と所得の提供者として、納税者として、地球環境悪化の原因者として等々、色々な側面で社会との係わりを深めています。

このように社会への影響力の大きい企業は、相互に激しい競争を展開しながら、人的・物的資源を使って財貨・サービスに変換し、社会に提供する経済活動を行うことを通じて、利益を追求しています。こうした企業の活動は、変化する競争環境に対応して展開されなければならないために、その構造と行動を絶えず変革・改善しなければなりません。しかも、現代の企業の活動は、多様な利害関係をもった人々と協働しながら展開されなければなりません。

講義では、上述のように、社会と密接な係わりをもつ存在意義が極めて大きく、環境の変化に対応して常に変革・改善を行いながら、存続を図っている企業の構造と行動の概要を考察することに致します。

【講義計画】

1. オリエンテーション
2. 企業と社会
3. 環境変化と企業経営
4. 企業の形態一株式会社を中心に
5. 企業の目的
6. 企業の戦略
7. マーケティング
8. 生産とその管理
9. 資金の調達と運用
10. 人的資源管理
11. 経営の国際化・グローバル化

【成績評価の方法】

期末試験の成績に、レポートの成績、ノートの整理状況（期末提出）などを加味する。

【教科書】

片岡信之・斉藤毅憲・高橋由明・渡辺竣著
『初めて学ぶ人のための経営学』文真堂

【参考文献】

- (1) 教科書に記載
- (2) その他は必要に応じて指示

【備考】

J 生対象外

科 目 名			
経営学			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期集中	4	小 林 哲 夫

【講義概要・学習目標】

Normann & Ramirez, Designing Interactive Strategy, Zell, Changing by Design: Organizational Innovation at HEWLETT-PACKARD, Liker, Frin, Adler, Remade in America などに紹介されているケースを教材として用いながら、経営戦略、経営組織ないし組織変革、新製品開発、日本的経営の海外移転などの経営学のトピックスについて学習する。

【講義計画】

- (1) Normann & Ramirez, の著書に紹介されている I K E A, Ryder System, デンマークの薬局と医薬品協会、フランスの公益企業 Campagnie Générale des Eauxグループ 及び Lyonnaise des Eaux Dumezグループのケースを中心に経営戦略のあり方について学習する。
- (2) Zell, の著書及び日本の論文に紹介されているヒューレット・パカードや日産自動車のケースを中心に組織変革について学習する。
- (3) N S K (日本精工) のケースを中心に日本的経営の海外移転
- (4) その他。

【成績評価の方法】

期末テストも行うが、常時の演習を重視する。

【教科書】

授業中に資料を配布する。

【参考文献】

伊丹敬之・加護野忠男『ゼミナール経営学入門』（日本経済新聞社）

科 目 名			
経営学基礎			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	秋学期	2	今 木 秀 和
02	秋学期	2	今 木 秀 和
03	秋学期	2	武 田 久 義
04	秋学期	2	武 田 久 義

【講義概要・学習目標】

経営学では、どのような内容を学ぶのでしょうか。履修要項にはさまざまな経営学関連の科目が並んでいます。しかし、それぞれの科目がどのような学習内容を含んでいるのか、初めての人にはなかなかわかりづらい事が多いと思われます。

そこでこの講義では、経営学部で開設している諸科目のうち経営学・商学関係科目の主な内容を、かいつまんで易しく解説し、それぞれの科目について大まかなイメージが持てるようにします。それとともに、経営学部でどのような勉強をしていけば将来どのような職業に就くのに有利になるのか、また、ある特定の職業に就くためにはどのような科目をとって系統的に勉強していけばいいか、という点についても、ガイドします。

この講義を履修し終わった人が、1年後期(第2セメスター)から自覚を持って、みずからの判断で積極的なキャリア形式(将来めざす仕事に向けた能力・経歴形式)に進んでいけるように学習方向をサポートするのが、この講義の主な目標です。

【講義計画】

配付資料に従って、概ねその順に講義を進めます。講義には必ず出て、よく注意して聴き、ノートをとる癖をつけてください。

1. 経営学、商学とはどんな学問かー全体的見取り図(経営学総論、経営学史、経営史、商学の主内容)
2. 会社の仕組みはどのようなになっているのかについての知識を学ぶー企業論
3. 会社を運営するにあたって知っておかねばならない知識を学ぶー経営管理論
4. ヒトをどのように雇い使うか、会社と従業員がともにハッピーになるにはどのようにしたらよいかについての知識を学ぶー経営労務論
5. 会社ではどのようにしてモノを作っているのかについての知識を学ぶー生産管理論
6. 商品流通の仕組みと販売に関する一切の知識を学ぶー流通論、マーケティング論
7. お金をどう集め・運用するかについての知識を学ぶー経営財務論
8. 金融制度・保険制度・証券市場の仕組みと銀行業・保険業・証券業についての知識を学ぶー銀行論・保険論・証券論
9. 国際化時代の会社はどう変わってきているのかについての知識を学ぶー国際経営論、異文化間コミュニケーション論
10. 中小企業の直面する問題と起業家についての知識を学ぶー中小企業論
11. 組織の個性・品性・文化と社会的責任のあり方についての知識を学ぶー組織倫理学
12. 大学院レベルの高度な授業に挑戦しようー環太平洋圏経営研究、日本経営論研究
13. 現代版の読み・書き・そろばんの武器を身につけようー実務英語、情報諸科目、情報収集能力、リーダーシップ能力、戦略作成能力
14. 就職活動・キャリア形成は入学時から始まっているー経営学部卒が有利な職業の紹介、学科履修との関係づけ、就職課職員の話聴く
15. 自分のライフプランと今後の学習計画を立ててみよう

【成績評価の方法】

- ① 期末テストの結果
- ② 講義中に随時指示する提出レポートなどによる総合評価とします。

【教科書】

最初の時間にテキストを配付します。

【参考文献】

●特に指定はしませんが、ポータブルな(携帯できる小さな)経営学関係の辞典をいつも手元に持っていることを奨めます。授業の時に必要に応じてひいてみるほか、平日頃から隙間時間を利用して、どの言葉からでも手当たり次第に読んで下さい。

科 目 名			
経営学史			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期集中	4	野 田 俊 範

【講義概要・学習目標】

経営学は、ドイツとアメリカにおいて20世紀初頭に成立した若い学問である。そしてその経営学は、ドイツ、アメリカ、および日本においてめざましい発展を遂げてきたのである。日本における経営学は、ドイツ経営学を骨とし、アメリカ経営学を肉として発展してきたと言われるが、特に学問としての経営学の体系や方法論などの点で、ドイツ経営学によって多大の影響を受けてきたことは事実である。

本講義では、そのドイツ経営学の生成・展開の歴史を概観し、主要な理論傾向について概説するとともに、今後の発展の方向について考えることとしたい。その際、学説と、その学説の歴史的・社会的背景との関連を明らかにすることを重視する。いかなる学説も、その社会的・経済的・文化的背景による制約から逃れることはできないからである。

ドイツ経営学の歴史を学ぶことを通じて、今日世界の経営学で主流をなしているアメリカ流の経営管理学とは違う、経営学の今ひとつの可能性を知ってほしい。

【講義計画】

- I. 経営学史の方法
 1. 経営学史研究の意義
 2. 経営学史研究の課題
- II. ドイツ経営学の発展
 1. 私経済学の成立
 2. 経営経済学の確立
 3. 経営経済学の展開
 4. 転換期の経営経済学
- III. 現代のドイツ経営学
 1. 経営経済学の新展開
 2. 経営経済学の意義と課題

(詳細な講義計画については、第1回の講義において提示する。)

【成績評価の方法】

学期末試験により評価する。

【教科書】

使用しない。

【参考文献】

水谷勤／望田幸男編著『ドイツ近代史』ミネルヴァ書房、1992年。
海道ノブチカ／深山明編著『ドイツ経営学の基調』中央経済社、1994年。
その他、必要に応じて適宜指示する。

科 目 名			
経営学総論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	春学期集中	4	谷 口 照 三

【講義概要・学習目標】

経営学は、人間生活と密接に関係している、いわゆる企業を主たる対象に研究してきた。この企業の具体的なイメージとしては、「何々会社」を思い描けばよい。われわれが住むこの世界には、様々な会社があり、それらの会社が人間の生活に必要な様々な物やサービスを提供している。経営学は、人間の生活に必要な様々な物やサービスとは何か、またそのような物やサービスを提供するために必要で充分な条件や物事および考え方は何かを明らかにすることをめざしている。

その際、いくつかの点を考慮する必要がある。とりわけ、以下の2つの視座ないし態度が重要である。まず第1に、人間生活やそれに応答する企業の活動は、時代によって変化する面と変化しない面があるので、それらを峻別し、その上でそれらの関係を考えていかなければならない。企業の活動は、多くの人々の働きや社会的な制度および自然環境に支えられたり、それらに制約を受ける。そればかりでなく、企業の活動はこのような諸環境に大きな影響を与える。従って、次に考慮しなければならない点は、それらの諸環境と企業との関係を、「プラスの影響とマイナスの影響」の双方からとらえていく態度である。

本講義では、この様な2つの視座ないし態度の下に、経営学の基礎と概略、および経営学を学ぶことの意味が理解できるように、進めていきたい。

【講義計画】

1. 生活を支える企業 (第1, 2回)
2. 環境の変化と企業経営 (第3, 4回)
3. 現代の企業社会と経営学を学ぶ意義 (第5, 6回)
4. 企業は誰が経営し、動かしているのか (第7, 8回)
5. 企業は何をめざして活動しているのか (第9, 10回)
6. 企業が利用できる経営資源にはどのようなものがあるか (第11, 12回)
7. 企業はどのようにして経営し、組織をつくるのか (第13, 14回)
8. 企業の組織はどのように動いているのか (第15, 16回)
9. 企業はどのようにして製品やサービスを販売するのか (第17, 18回)
10. 企業はどのようにして製品やサービスを開発し、生産しているのか (第19, 20回)
11. 組企業はどのようにして資金を調達し、運用するのか (第21, 22回)
12. 企業はどのようにして人材を活用するのか (第23, 24回)
13. 企業はどのようにして文化をはぐくむのか (第25, 26回)
14. 21世紀的文脈と経営学の新しい視座 (第27回)
15. 経営学の21世紀的課題 (第28回)

【成績評価の方法】

不定期小テスト、レポートおよび春学期末試験の総合評価。

【教科書】

片岡信之、斉藤毅憲、高橋由明、渡辺 峻共著『はじめて学ぶ人のための経営学』文真堂、2000年。

【参考文献】

必要に応じて適宜指示する。

【備考】

<02~05生>
共通自由科目として、B・J生対象外

科 目 名			
経営学総論			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
02	秋学期集中	4	片 岡 信 之

【講義概要・学習目標】

この講義は、皆さんが将来経営学の各論講義で詳しい話を聞く前に、経営学の全般について予め予備知識を持っていることがふさわしいという狙いから設けられています。

したがって、本講義の目標もその点におかれることとなります。すなわち、経営学全体について、広く浅くサーベイすることです。しかも、出来るだけ、経営学という学問が面白いものだという感じを持って貰えるように、皆さんを動機づけ出来たらよいと思っています。

経営学は範囲が広いので、時間的事情によってはすべてを網羅することにまで至らないかもしれませんが、出来るだけ多くのことをお話ししたいと思います。経営学の基礎知識をつけるのだという気持ちで臨んで下さい。

ノートを必ず取ってください。この講義の目的の一つは、今後4年間に話を聴いて要点を掴み、ノートに取るという訓練を1年生の初めから習慣づけてもらうことを兼ねています。したがって、学年末にはノートを提出してもらい評価点として加味します。

【講義計画】

テキストに従って、概ねその順に講義を進めます。

1. 生活を支える企業
2. 環境の変化と企業経営
3. 現代の企業社会と経営学を学ぶ意義
4. 企業は誰が経営し、動かしているのか
5. 企業は何を目指して活動しているのか
6. 企業が利用できる経営資源には、どのようなものがあるか
7. 企業はどのようにして経営し、組織を作るのか
8. 企業の組織はどのように動いているのか
9. 企業はどのようにして製品やサービスを販売するのか
10. 企業はどのようにして製品やサービスを開発し、生産しているのか
11. 企業はどのようにして資金を調達し、運用するのか
12. 企業はどのようにして人材を活用するのか
13. 企業はどのようにして文化をはぐくむのか

【成績評価の方法】

- ①期末テスト結果によるほか、
- ②講義ノートチェック（出席してしっかり要点のノートを取っているかどうか）、
- ③講義中の小テスト受けているかどうか、などによる総合評価とします。

概ね期末テスト結果6割、その他4割の比重で評価をします。特にノートを重視しますが、あきらかに他人のノートを丸写しただけと判定できるものについては、写した方と写させた方の両方のノートを採点対象から除外します。講義はテキストに沿ってしますが、テキストに書いていないことも当然話しますから、試験直前にテキストを纏めるだけでは、十分ではありません。なお、ノートは翌年度の新学期に返却します。

【教科書】

片岡信之、斉藤毅憲、高橋由明、渡辺 峻共著『はじめて学ぶ人のための経営学』文真堂、2000年。

【参考文献】

特に指定はしませんが、ポータブルな（携帯できる小さな）経営学辞典をいつも手元に持っていることを奨めます。授業の時に必要に応じてひいてみるほか、平日頃からすき間時間を利用して、どの言葉からでも手当たり次第に読んで下さい。つぎの何れかが、値段も手頃で良いでしょう。難易度は1→2→3の順に難しくなっています。

1. 片岡・齋藤・佐々木・高橋・渡辺編『ベシック経営学辞典』中央経済社、2600円
2. 吉田和夫・大橋昭一編『基本経営学辞典』同文館、2500円
3. 二神恭一編『ビジネス・経営学辞典』中央経済社、3500円

【備考】

<02～05生>

共通自由科目として、B生対象外

科 目 名			
経営学特別講義－インターネットビジネス (旧経営学特講－インターネットビジネス)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	村 山 博

【講義概要・学習目標】

この講義は、インターネットを使った最新ビジネスに関するものであり、原則的に英語で行う。★★★

【注意】英語のヒヤリング能力に自信のある人だけ受講してください。

インターネットは多くの新しいビジネスを誕生させながら、我々の社会や生活を大きく変革し始めている。21世紀のビジネスは、インターネットを武器とした知的闘争力が勝敗を決めるといっても過言ではない。中でも、世界のインターネットの80%が英語で書かれている現状から、日本語への翻訳を介するのではなく、直接英語で実際のビジネスを理解することは、インターネット誕生以前に比べ、極めて重要になってきている。ところが、従来の講義は、『経営学』『情報技術』『英語』が別々に分かれている場合が多かった。そこで、本講義は、インターネットを武器にして新しく誕生しつつあるビジネスを中心に英語で講義するものである。

【講義計画】

★★★講義は原則的に英語で行う。★★★

1. 日本の産業
2. 日本の情報通信産業
3. 日本の情報通信インフラの現状
4. 日本のデジタルネットワーク社会の構築
5. ブロードバンド・ビジネスの発展
6. 情報家電の現状と今後
7. インターネットビジネスの現状と今後

【成績評価の方法】

試験とレポートで評価する。
（注意）試験問題は英語で出題する。

【教科書】

特に使用しない。

【参考文献】

講義中に適宜指示する。

【備考】

英語による授業科目

科 目 名			
経営学特別講義－日本の銀行の概要 (旧経営学特講－日本の銀行の概要)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	深 谷 清 之

【講義概要・学習目標】

- Abstract of the lecture
This lecture gives students the abstract knowledge on banking industry in Japan.
Especially this lecture is basing on the comparison between Japanese banking industries and European industries, United States industries. And this lecture is focusing on the banking industries and their business processes.
- Methods of the lecture
This lecture is presented by PowerPoint presentations and handouts at every class.
At final, all students should submit a report on the required subject for credits.
- Attentions for the lecture
There are no attentions for the lecture such as preparations, bringing materials, and so on.

【講義計画】

- Schedule of the lecture
- Introduction of the lecture and Banking industry in Japan
- History of Banking industry in Japan
- The comparison of banking industry between Japan and Europe, United States
- Deposit business
- Loan business
- Payment and settlement business
- Investment business
- Delivery channels in Banking business
- Customer Relationship Management in Banking business
- Hot issues in Banking business; Bad Debt
- Hot issues in Banking business; Capital and BIS regulation
- Closing the lecture

【成績評価の方法】

Credits will be given by the points of attendance to the lecture and a report.

【教科書】

There are no texts for this lecture. Every class students will get the handouts.

【備考】

英語による授業科目

科 目 名			
経営学特別講義－日本の金融業界の概要 (旧経営学特講－日本の金融業界の概要)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	深 谷 清 之

【講義概要・学習目標】

- Abstract of the lecture
This lecture gives students the abstract knowledge on financial industry in Japan.
Especially this lecture is basing on the comparison between Japanese industries and European industries, United States industries. And this lecture is also basing on the banking, securities, and insurance industries.
- Methods of the lecture
This lecture is presented by PowerPoint presentations and handouts at every class.
At final, all students should submit a report on the required subject for credits.
- Attentions for the lecture
There are no attentions for the lecture such as preparations, bringing materials, and so on.

【講義計画】

- Schedule of the lecture
- Introduction of the lecture and financial industry in Japan
- Introduction of banking industry in Japan
- The comparison of banking industry between Japan and Europe, United States
- Abstract of banking business in Japan
- Introduction of securities industry in Japan
- The comparison of securities industry between Japan and Europe, United States
- Abstract of securities business in Japan
- Introduction of insurance industry in Japan
- The comparison of insurance industry between Japan and Europe, United States
- Abstract of insurance business in Japan (Life insurance)
- Abstract of insurance business in Japan (Non life insurance)
- Closing the lecture

【成績評価の方法】

Credits will be given by the points of attendance to the lecture and a report.

【教科書】

There are no texts for this lecture. Every class students will get the handouts.

【備考】

英語による授業科目

科 目 名			
経営学特講－英文簿記会計 (旧経済学特講－英文簿記会計) (旧会計学特講－英文簿記会計)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	春学期	2	中 村 恒 彦

【講義概要・学習目標】

本講義は、BATIC（国際会計検定）試験に焦点をあわせて、受講者の皆さんの国際ビジネス能力を向上させることを目的に開講されています。講義を担当するのは、国際業務に携わってきた公認会計士の皆さんです。毎時間、講義50分、演習20分、解説10分、質疑応答10分を標準として進める予定です。簿記についてのある程度の事前知識を必要としますので、商業簿記の単位修得ないし日商簿記検定3級を履修条件としています。国際ビジネスに関心ある学生は、本講義とあいまって、経営学特講（企業情報の開示と税制：日本）を受講することをお勧めします。

【講義計画】

1. Basic Concept of Bookkeeping Business Transaction
2. The Accounting Cycle and Controlling System, Accounting Structure, Recording Financial Transaction
3. Adjusting and Closing Entries, Preparation of the Worksheet, Financial Statements
4. Financial Accounting and Reporting, Financial Statements
5. Cash, Account Receivable
6. Inventories, Property, Plant and Equipment
7. Intangible Assets Investments
8. Liabilities, Stockholder's Equity
9. Translation of Foreign Currency Statements, Statement of Cash Flows
10. Business Combinations
11. Interim Financial reporting and Segment Information, Accounting Change and Correction Errors, Time Value of Money

【成績評価の方法】

学期末テストの成績と出席状況を勘案して評価する。

【教科書】

BATIC公式テキスト『Subject 1』

【参考文献】

講義中に適宜指示する

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
経営学特講－企業情報の開示と税制：日本 (旧経済学特講－企業情報の開示と税制：日本) (旧会計学特講－企業情報の開示と税制：日本)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	ハク テ ヨン 朴 大 榮

【講義概要・学習目標】

国際化への対応は、たんに英語を話し、外国の制度・文化を勉強するだけでは十分とは言えない。その前提として、諸君の生活基盤がある日本の制度・文化の理解こそが必要である。渡日者、あるいは日本に関心のある外国人は日本の制度・文化に関心をもっている。われわれは、受信のみならず、発信もしなければならない。彼らの質問に英語で答えることができるだろうか、これこそ見逃せない課題である。ビジネス活動の国際化により、日本の会計、商法、税制などについての英語による発信もますます重要性を高めている。

本講義は、国際的に活躍しようとする学生諸君のために企画された。流暢な英語、きれいな発音に偏り過ぎることは、勉学の本質を見失ってしまう。本講義を担当するのは、現在あるいは過去において海外赴任の経験のある、あるいは、海外企業の業務にかかわってこられた公認会計士の皆さんである。国際的に活躍されている専門家の皆さんがどのように英語で日本の会計システムを解説されるか。ぜひとも、五感で触れて欲しい。

本講義は、ヨーロッパなど本学との交流締結校からの交換留学生も受講する。学生間の交流も本講義の目的のひとつである。

【講義計画】

- 1 : Accounting and Auditing Practices in Japan Introduction
 - 2 : Accounting Practices in Japan Japanese GAAP (1)
 - 3 : Accounting Practices in Japan Japanese GAAP (2)
 - 4 : Accounting Practices in Japan Japanese GAAP (3)
 - 5 : Reporting under the Japanese Commercial Code
 - 6 : Reporting under the Securities and Exchange Law in Japan
 - 7 : Semi-annual Financial Statements
 - 8 : Consolidated Financial Statements
 - 9 : History of Auditing Practice in Japan
 - 10 : Audit Standards and Practices in Japan
 - 11 : Tax System in Japan
 - 12 : Corporate Income Taxation in Japan
- *実務家による講義であるため、業務との関連で変更もありうる。

【成績評価の方法】

レポートと出席状況を勘案して評価する。

【教科書】

とくに指定しないが、講義中に資料を配付する。

【参考文献】

講義中に適宜指示する。

【備考】

インテグレーション科目
英語による授業科目

科 目 名			
経営学特講－企業人に学ぶ (旧経済学特講－企業人に学ぶ)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	武 田 久 義

【講義概要・学習目標】

この講義は、諸君の中に眠っているかもしれない能力やパワーに諸君が自ら気づき、力を発揮してもらうことを第一の目的としている。主な講義内容は、(1) 企業の実態について学ぶこと、(2) 働くことについて具体的なイメージを描くこと、(3) 職場における問題の発見とそれへの対処についてまなぶこと、(4) 企業の方と上手なコミュニケーションをとること等である。講師は、現在会社で重要な働きをしている本学のOBを中心とし、受講資格は3回生に限定している。授業は小人数で行われ、業界や企業に関する知識や話題提供のほか、課題作成、グループディスカッション等を中心にすすめられる。また、講師との自由な対話も予定している。

講義は、原則的に土曜日の午後に、5回実施する予定である。したがって1回の授業は、通常の3回分を行う。この講義は、真剣に自らの将来について考え、やる気をもって進んでいく学生のみを対象とする。したがって、作文提出や面接等の事前の選抜を行う場合もある。履修登録にあたって掲示に注意すること。

【講義計画】

- (1) 授業は、以下のテーマで合計5回実施する予定。
- ①会社で働くこと
 - ②百貨店・流通業界
 - ③金融業界
 - ④製造業、とくに製菓業界
 - ⑤製菓業界
- (2) 実施時期等
- 原則的に秋学期の土曜日。13時20分から18時10分。
- (3) 事前審査等
- 6-7月頃に、作文を提出してもらう。掲示に注意すること。

【成績評価の方法】

出席、受講態度、レポート等を総合的に判断する。

【教科書】

プリントや資料を配布する。

【参考文献】

随時指示する。

【備考】

インテグレーション科目

科 目 名			
経営学特講－国際ビジネスと企業経営 (旧経営・商学特講－国際ビジネスと企業経営)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	小 畠 孝治郎

【講義概要・学習目標】

メガ・コンペティションを戦いぬくために多国籍企業がとる戦略を、新聞などを通じて理解し、その実践のケース・スタディから、国際経営を理解する上で必要な基礎知識を身につけることが目標である（題材が陳腐になればシラバスも部分修正する）。

【講義計画】

1. イントロダクション
 - ①「国際ビジネス」と「企業経営」
 - ② 企業取引と産業分類
2. 国際ビジネスとはなにか
 - ③ 国際ビジネス1：貿易
 - ④ 国際ビジネス2：海外投資
 - ⑤ 国際決済手段としての外国為替
3. 国際ビジネスの場－地域の広がり
 - ⑥ 世界の地域経済圏（EU、NAFTA、ASEAN、MERCOSUR等）とWTO
 - ⑦ わが国の経済50年の歴史と東南アジア
 - ⑧ 中国市場と世界の自動車メーカーの進出
4. 国際ビジネスの競争
 - ⑨ 産業分析と経営戦略：世界のエレクトロニクス産業の現状
 - ⑩ 販売戦略：薄型ディスプレイとテレビ・青色レーザー DVD
 - ⑪ 生産システム：トヨタ生産方式「ジャストインタイムと自動化」
5. 国際ビジネスにおける企業の社会的責任
 - ⑫ Corporate Governance と Social Responsibility(CSR)
 - ⑬ トヨタ自動車、松下電器産業の対応
6. 「国際ビジネスと企業経営」の総括
 - ⑭ 国際ビジネスの総括

【成績評価の方法】

- ・期末試験で評価する。
- ・出席点は（出席票を配るのではなく）講義の中で試験のヒントやキーワードを示し、答案に反映してもらうことによって出席を確認する方法も取り入れる。
- ただ教室に来て、私語をし、寝るだけの人たちが出席点を稼げないようにするための手法である。

【教科書】

- ・教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。またOHPなどで多くの資料を提示する。
- ・新聞の経済欄は生きた教科書である。

【参考文献】

- ・ジェトロ監修・世界経済情報サービス制作「THE WORLD 2004」（ジェトロ2004. 5 1260税込）
- ・総務省統計局「日本の統計」「世界の統計」日本統計協会（H16. 3 各1848税込）
- ・その他は各講義の中で紹介する。

科 目 名			
経営学特講－日本企業のグローバル戦略 (旧経済学特講－日本企業のグローバル戦略) (旧経営・商学特講－日本企業のグローバル戦略)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
	秋学期	2	鈴 木 幾多郎

【講義概要・学習目標】

この講義は「The Global Strategy of Japanese Enterprises」をテーマに商社で長年の実践経験をもっている講師が日本企業のグローバル戦略の実態と課題を講義するものである。

◆授業は「英語」で行われるので、その点を注意して受講してほしい。

【講義計画】

各講師は、以下のテーマについて「英語」で講義する。

1. Doing business across cultures
2. The role and functions of Sogo-Shosha
3. The Impact of Japan on international trade
4. The progress and diversification of Japanese international trade
5. Risk management in international trade
6. Textile business in Hongkong
7. Business communication in English
8. Textile joint venture business in China
9. The transaction of export by small manufacturers
10. FDI will activate Osaka Economy
11. What makes up a successful businessperson
12. The changing role of trading companies

【成績評価の方法】

レポート(使用言語は「英語」が望ましいが「日本語」でも可)で評価する。

【教科書】

レジメ及び資料は配布する。

【参考文献】

参考文献及び資料については、その都度指示する。

【備考】

インテグレーション科目
英語による授業科目

科 目 名			
経営学特講－パソコンによる経理 (旧会計学特講－パソコンによる経理)			
クラス	講義区分	単位数	担 当 者
01	秋学期	2	安 井 一 浩
02	秋学期	2	

【講義概要・学習目標】

現在では経理作業にコンピュータは欠かせないものとなっています。この講義では経理用ソフト「弥生会計」を使用してパソコンによる経理実務を学習します。また単に操作だけではなく、その背景にある簿記の理論も学習します。また必要に応じて表計算ソフト等の活用方法も説明します。日常的な経理実務ができるようになることを目標とします。なお日本商工会議所簿記検定3級の内容を理解していることを前提とします。

【講義計画】

経理用ソフトの各種設定、現金出納帳、預金出納帳、売掛帳の記帳方法、伝票の作成方法を順次説明し実際に作成してもらいます。また講義の中で適宜、複式簿記の原理、帳簿組織の仕組みを説明します。なお講義は例題を中心に進める予定です。

【成績評価の方法】

出席回数、講義中の態度及び考査を総合的に考慮して評価します。

【教科書】

特に使用しない。

【参考文献】

特になし。